#860 明治36年 夏の部 草合草に住き名をつけにけり 草合 人事				友 ツ 川		
#860 明治36年 夏の部 御子編子の田植めでたし神の岡 田植 人事 物子3636年 夏の部 月下ばら剪で香に驚きぬ 薔薇 福物 人事 明治36年 夏の部 初拾配付き巻にかいやきぬ (青々) 拾 人事 明治36年 夏の部 初拾配付ききにかいやきぬ (青々) 拾 人事 明治36年 夏の部 初拾配付ききごうしみぬ (獨種相) 拾 人事 明治36年 夏の部 初拾合てれにつけても超草哉 (紅緑) 拾 人事 明治36年 夏の部 初拾合てれにつけても超草哉 (紅緑) 拾 人事 明治36年 夏の部 初拾合へれでかけても超草哉 (紅緑) 拾 人事 明治36年 夏の部 初拾合くはた離いて結びけり (虚子) 拾 ん事 初治36年 夏の部 初拾合くはた離いて結びけり (虚子) 拾 の花 人事 明治36年 夏の部 夏座敷をれて吹人る神木の香 夏座敷 人事 解析 月末36年 夏の部 超よめば夏斯の腹の鳴ることよ 夏斯 人事 解析 9 常治36年 夏の部 離よめば夏斯の腹の鳴ることよ 夏斯 人事 解析 9 常治36年 夏の部 薬上めば夏斯の腹の鳴ることよ 夏斯 人事 解析 9 常治36年 夏の部 薬上のば夏斯の腹の鳴ることと 夏斯 人事 第1836年 夏の部 薬をおたまあけずり 薬目 人事 報刊 明治36年 夏の部 薬のみを減ばむ神一樹 薬日 人事 第1836年 夏の部 華かけらがら対みつ薬摘 薬目 人事 報刊 明治36年 夏の部 野かりに列連士庫にあり 薬目 人事 報刊 り前369年 夏の部 財かりに列連士庫にあり 競馬 人事 報刊・200部 東かりに列連士庫にあり 短馬 人事 解析 1836年 夏の部 財かりに列連工庫に張の音 五月 時候 第1836年 夏の部 財からに列連工庫に張の音 五月 時候 第1836年 夏の部 財が20年 夏の部 財の312年 夏の部 財の312年 夏の部 財の312年 夏の部 財の312年 夏の部 財の312年 夏の部 財の3136年 夏の部 財の312年 夏の部 財の312年 夏の部 財の3136年 夏の部 財の312年 夏の部 財産3136年 夏の部 財産3136年 夏の部 財産314年 夏の部 関治315年 夏の部 関本215年 夏の部 短次やりに当帰地 月末25年 夏の部 短衣をりとりかまの 夏の霧 天文 美術の315年 夏の部 短衣をりたりにも肺の 夏の霧 天文 美術の315年 夏の部 短衣をりてらりにも肺の 夏の霧 天文 女 第315年 夏の部 短衣のりつきびも貼がわけり 福木 下产 植物 1515年 夏の部 短衣のり 明治316年 夏の部 短衣のりつきびも貼がわけり 石月雨 天文 女 明治316年 夏の部 財産215年 夏の部 短衣をりてらり 野音316年 夏の部 短衣をしていたり 石月雨 天文 女 明治316年 夏の部 新名16年 夏の部 経衣をしたりのり 明治316年 夏の部 短衣をしていたり 本月雨 天文 女 1515年 夏の部 新名16年 夏の部 短衣をしていたり 本月雨 天文 女 1515年 夏の部 日本215年 夏の部 短衣215年 夏の部 短れていてにより 本日 国本215年 夏の部 短衣215年 夏の部 短衣215年 夏の部 別末315年 夏の部 短衣215年 夏の部 短衣215年 夏の部 短末315年 夏の部 短末315年 夏の部 短末315年 夏の 第315年 夏の 第31	No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4861 明治36年	4859	明治36年	夏の部	草合草に佳き名をつけにけり	草合	人事
#864 明治36年 夏の部 初給銀は黄巻にかゞやきぬ(青々) 給 人事	4860	明治36年	夏の部	御子羅子の田植めでたし神の國	田植	人事
## 4865 明治36年 夏の部 初拾酒のまぬ人綱長し(四方太) 拾 人事 ## 4865 明治36年 夏の部 初拾名れにつけても類草哉(紅緑) 拾 人事 ## 4866 明治36年 夏の部 初拾合れによき酒子オンス (鳴雪) 拾 人事 ## 4868 明治36年 夏の部 初拾合れによき酒子オンス (鳴雪) 拾 人事 ## 4868 明治36年 夏の部 初拾合れに大き池子オンス (鳴雪) 桁 4869 明治36年 夏の部 初拾合はた酢いて遙いけり(虚子) 榊	4861	明治36年	夏の部	月下ばら剪て香に驚きぬ	薔薇	植物
## 4866 明治36年 夏の部 初拾それにつけても烟車哉(紅緑) 拾 人事	4863	明治36年	夏の部	初給眼は黄巻にかゞやきぬ(青々)	袷	人事
## 4866 明治36年 夏の部 初拾それにつけても烟車哉(紅緑) 拾 人事	4864	明治36年	夏の部	初給酒のまぬ人細長し(四方太)	袷	人事
4866   別治36年   夏の部   初拾うれしよき酒三オンス (鳴雪)   拾   人事   人事   投868   別治36年   夏の部   初拾今の世の句をさげしみぬ (部番桐)   拾   人事   人事   4869   別治36年   夏の部   初拾令と上のかされる   夏座敷   八事   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	4865	明治36年	夏の部	初給それにつけても烟草哉(紅緑)	袷	人事
## 4869 明治36年 夏の部 初給合はた醉ひて謠ひけり(虚子) 拾	4866	明治36年	夏の部	初給うれしよき酒三オンス(鳴雪)		人事
4870   明治36年   夏の部   富や蘇と日のさす桐の花   桐の花   植物   明治36年   夏の部   夏座敷春れて吹入る神木の香   夏座敷   人事   4872   明治36年   夏の部   夕立や電もまじりて紅藍花畑   夕立   天文   4873   明治36年   夏の部   一	4867	明治36年	夏の部	初袷今の世の句をさげしみぬ (碧梧桐)	袷	人事
4870   明治36年   夏の部   夏座敷番れて吹入る艸木の香   夏座敷   入事     4871   明治36年   夏の部   経よめば夏斯の腹の鳴ることよ   夏斯   人事     4873   明治36年   夏の部   総よめば夏斯の腹の鳴ることよ   夏斯   人事     4874   明治36年   夏の部   薬目の鼎の魔を潜飛げり   差策   植物   本報   大事   横形36年   夏の部   薬目の鼎の魔を潜みげり   薬目   人事     4876   明治36年   夏の部   薬目の鼎の魔を潜みびり   薬目   人事   人事   明治36年   夏の部   薬多る我庭質ばむ梅一樹   薬ふる   天文   4877   明治36年   夏の部   薬を上がびる主従かな   薬目   人事   明治36年   夏の部   薬を上がしてきれなな   薬目   人事   明治36年   夏の部   減かりこの頃道土庫にあり   競馬   人事   明治36年   夏の部   減かりこの頃道土庫にあり   競馬   人事   日本879   明治36年   夏の部   耳あれば天地五月の雲の音   五月   時候   日本884   明治36年   夏の部   正月   正月   正月   正月   正月   正月   日本884   明治36年   夏の部   正月   正月   正月   正月   正月   正月   正月   正	4868	明治36年	夏の部	初給今はた醉ひて謠ひけり (虚子)	袷	人事
## 4871 明治36年 夏の部 経よめば夏断の腹の鳴ることよ 夏斯 人事 明治36年 夏の部 夕立や電もまじりて紅藍花畑 夕立 天文 第4873 明治36年 夏の部 今立や電もまじりて紅藍花畑 夕立 天文 1873 明治36年 夏の部 葬中庫に銀杏の若葉輝けり 菱甲 人事 4875 明治36年 夏の部 薬中の帰の塵を稀ひけり 菱甲 人事 明治36年 夏の部 薬を480歳責(む)作一樹 薬ふる 天文 明治36年 夏の部 薬を480素(支)・薬・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・シ・	4869	明治36年	夏の部	雷や赫と日のさす桐の花	桐の花	植物
4872 明治36年 夏の部 夕立や雹もまじりて紅藍花畑 男か36年 夏の部 御神庫に銀杏の若葉輝けり 若葉 植物 報子 明治36年 夏の部 御神庫に銀杏の若葉輝けり 薬日 人事 報子 明治36年 夏の部 かりそめたかみ試みの薬講 薬日 人事 4875 明治36年 夏の部 薬かとめたかまみの薬講 薬日 人事 4876 明治36年 夏の部 薬がしていたざる主從かな 薬日 人事 明治36年 夏の部 薬がいやしからざる主從かな 薬日 人事 明治36年 夏の部 薬がいやしからざる主從かな 薬日 人事 明治36年 夏の部 耳あれば天地工月の雲の音 五月 明治36年 夏の部 耳あれば天地工月の雲の音 五月 時候 4881 明治36年 夏の部 耳あれば天地工月の雲の音 五月 時候 4884 明治36年 夏の部 耳あれば天地工月の雲の音 五月 明治36年 夏の部 五月雨やいって追手が呼ばか声 五月雨 天文 4885 明治36年 夏の部 服の前の紅花盤りなり夏蔵 紅花 植物 18736年 夏の部 総正・本変の書をすす 簟 人事 4888 明治36年 夏の部 総正・本変の書をすす 簟 人事 4888 明治36年 夏の部 海に木飯空し簟 簟 人事 4889 明治36年 夏の部 海に木飯空し簟 簟 人事 4899 明治36年 夏の部 喜な水でびて来る 中馬哉 夏中樂 18736年 夏の部 嘉な小式交響で来る 人事 1892 明治36年 夏の部 露京し木修成 18 夏の露 天文 1892 明治36年 夏の部 露京し木衛期 18 夏の露 天文 1893 明治36年 夏の部 露京し木衛期 18 夏の露 天文 1896 明治36年 夏の部 露京し木像熱して紅に 夏の露 天文 1896 明治36年 夏の部 超夜の大や丘見の自き 短夜 時候 1836年 夏の部 短夜の大空に見の自き 短夜 時候 1836年 夏の部 短夜のかり 18 夏の 18 万丈 18 万丈 18 万丈 18 万丈 18 万丈 18 万寸	4870	明治36年	夏の部	夏座敷暮れて吹入る艸木の香	夏座敷	人事
4873   明治36年   夏の部   御神庫に銀杏の若葉輝けり   若葉   植物   4874   明治36年   夏の部   薬日の鼎の塵を掃ひけり   薬日   人事   英日   人事   東日   人事   東日   人事   明治36年   夏の部   薬られた庭黄はむ梅一樹   薬ふる   天文   4876   明治36年   夏の部   薬られた庭黄はむ梅一樹   薬ふる   天文   4877   明治36年   夏の部   薬草を採り薬草を干す一日哉   薬日   人事   4878   明治36年   夏の部   薬草を採り薬草を干す一日哉   薬日   人事   4879   明治36年   夏の部   耳あれば天地五月の雲の音   五月   時候   4881   明治36年   夏の部   耳あれば天地五月の雲の音   五月   時候   4884   明治36年   夏の部   五月雨やいって追手が呼ばふ声   五月雨   5時候   4885   明治36年   夏の部   五月雨やいって追手が呼ばふ声   五月雨   5時候   4886   明治36年   夏の部   曜童子も雲の奇を了す   簟   人事   4887   明治36年   夏の部   等間に茶の湯もすなり簟   簟   人事   4889   明治36年   夏の部   葵子鶴舌梅干の壷仆しけり   梅干寸   人事   4889   明治36年   夏の部   夏が鶴舌梅干の壷仆しけり   梅干寸   人事   4890   明治36年   夏の部   夏が鶴下梅下の童小しけり   梅干寸   人事   4891   明治36年   夏の部   夏が鶴下春下の壺小しけり   梅干寸   人事   4891   明治36年   夏の部   夏が鶴下春下の草に茶の煙   夏の露   天文   4894   明治36年   夏の部   夏がはて来る神馬哉   夏の露   天文   4894   明治36年   夏の部   夏がは、大藤の神に洗飯   夏の露   天文   4895   明治36年   夏の部   遼京し木権に消ゆるはゝき星   夏の露   天文   4896   明治36年   夏の部   短夜の場に洗飯   青芒   塩物の場に洗飯   青芒   塩物の湯に洗飯   東で   14905   明治36年   夏の部   短夜の場ーしきりちり松葉   短夜   5時候   5490   明治36年   夏の部   短夜のありのすさびも掃かれけり   五月雨   天文   4905   明治36年   夏の部   五月雨で薬をめぐりて当帰畑   五月雨   天文   4905   明治36年   夏の部   五月の薬をめぐりて当帰畑   五月雨   天文   4906   明治36年   夏の部   本れに音にこぼれけり稼枯の花   棕梠の花   植物   4907   明治36年   夏の部   株日の花風雨頼りに至る夕   棕梠の花   植物   4907   明治36年   夏の部   株日の花色雨雨切りに至る夕   棕梠の花   植物   4907   明治36年   夏の部   株日の花色雨雨切りに至る夕   棕梠の花   植物   4907   明治36年   夏の部   株日の花色雨雨切りに至る夕   棕梠の花   杭田の花は香にこぼれけり稼枯の花   棕田の花   杭田の花は香にこぼれけり稼枯の花   棕田の花   杭田の花は香にこぼれけり稼枯の花   棕田の花   杭田の花は香にごぼれげり   日月雨   天文   4906   明治36年   夏の部   株日の花は香にごぼれけり   日月雨   天文   4906   明治36年   夏の部   株日の花は香にごぼれけり稼枯の花   棕田の花   柱の花   14908   明治36年   夏の部   株日の花   14908   明治36年   夏の部   日前の本は香にびれいが高ればればれいが高ればればればればればればればればればればればればればればればればればればれば	4871	明治36年	夏の部	経よめば夏断の腹の鳴ることよ	夏断	人事
## 4874 明治36年 夏の部 樂日の鼎の塵を掃ひけり 樂日 人事	4872	明治36年	夏の部	夕立や雹もまじりて紅藍花畑	夕立	天文
4875 明治36年 夏の部	4873	明治36年	夏の部	御神庫に銀杏の若葉輝けり	若葉	植物
## 25 明治36年 夏の部 薬ふる我庭黄ばむ梅一樹 薬ふる 天文	4874	明治36年	夏の部	薬日の鼎の塵を掃ひけり	藥日	人事
4877 明治36年 夏の部 薬弁いやしからざる主從かな         薬日 人事           4878 明治36年 夏の部 薬草を採り薬草を干す一日哉         薬日 人事           4879 明治36年 夏の部 競かりこの頃道士庵にあり         競馬 人事           4881 明治36年 夏の部 日本れば天地五月の雲の音 五月 時候         五月 時候           4883 明治36年 夏の部 日本れば天地五月の雲の音 五月雨 天文         五月雨 天文           4884 明治36年 夏の部 日東の前の紅花盛りなり夏霞 紅花 植物         瀬木で 種物           4886 明治36年 夏の部 曜童子も雲の命を了す 章 人事         瀬木で 種物           4887 明治36年 夏の部 陽に木飯であますなり章 章 人事         第 人事           4889 明治36年 夏の部 魔子・豊の部 魔子・農田子の壷仆しけり 梅干す 人事         人事           4890 明治36年 夏の部 魔家と株性子の壷仆しけり 梅干す 人事         人事           4891 明治36年 夏の部 露京し杯の棚の棚 最 夏の露 天文         夏の露 天文           4893 明治36年 夏の部 露京し杯の棚田影 夏の露 天文         夏の露 天文           4894 明治36年 夏の部 露京し林徳朝して紅に 夏の露 天文         天文           4895 明治36年 夏の部 露京し林徳則に光の煙 夏の露 天文         天文           4896 明治36年 夏の部 露京し木末に消ゆるはゝき星 夏の露 天文         天文           4897 明治36年 夏の部 鑑夜の人や丘見の見白き 短夜 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の見白き 短夜 時候 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり 短夜 時候 時候 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり 短夜 時候 時候 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり 短夜 時候 時候 明治36年 夏の部 五月雨や家をめぐりて当帰畑 五月雨 天文         五月雨 天文           4900 明治36年 夏の部 海球のありのするびも滑畑 五月雨 天文         五月雨の薬をめぐりい当帰畑 五月雨 天文           4901 明治36年 夏の部 海球の 原産がく日の光り 五月雨 天文         五月雨 天文           4905 明治36年 夏の部 経過の部 保証の経過の部 保証の 日の光り 明治36年 夏の部 保証の 日の光り 日本の光り 精和の花は香にこぼれけり様相の花 標和の花 標和の花は香にこばれけり様相の花 特別の花 日の光り 日の光り 日の光の花 相物の 日の名 日の名 日の光り 日の名 日の光り 日の名 日の光り 日の名 日の名 日の名 日の名 日の名 日の名 日の名 日の名 日の名	4875	明治36年	夏の部	かりそめにかみ試みつ藥摘	藥日	人事
4878 明治36年 夏の部 薬草を採り薬草を干す一日哉 薬用 人事           4879 明治36年 夏の部 競かりこの頃道土庵にあり 競馬 人事           4881 明治36年 夏の部 耳あれば天地五月の雲の音 五月 時候           4883 明治36年 夏の部 この頃の日ッ本の國あけやすき 短夜 時候           4884 明治36年 夏の部 田の前の紅花盛りなり夏霞 紅花 植物           4885 明治36年 夏の部 眼の前の紅花盛りなり夏霞 紅花 植物           4886 明治36年 夏の部 陽に水砂湿し簟 童子も雲の奇を了す 簟 人事           4887 明治36年 夏の部 陽に水砂湿し簟 簟 人事           4888 明治36年 夏の部 陽に水砂空し簟 簟 人事           4889 明治36年 夏の部 陽に水砂空し簟 簟 人事           4889 明治36年 夏の部 陽に水砂空し簟 簟 人事           4890 明治36年 夏の部 露京上軒畑の車仆しけり 梅干す 人事           4891 明治36年 夏の部 露京上軒畑の華に茶の煙 夏の露 天文           4893 明治36年 夏の部 露京上軒畑の草に茶の煙 夏の露 天文           4894 明治36年 夏の部 露京上軒畑の草に茶の煙 夏の露 天文           4895 明治36年 夏の部 露京上本末に消ゆるはゝき星 夏の露 天文           4896 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の白き 短夜 時候           4897 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の白き 短夜 時候           4900 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の白き 短夜 時候           4901 明治36年 夏の部 短夜のありのすきびも掃かれけり 短夜 時候           4902 明治36年 夏の部 短夜のありのすきびも掃かれけり 短夜 時候           4903 明治36年 夏の部 短夜のありのすきびも掃かれけり 短夜 時候           4904 明治36年 夏の部 短れの必ずをども計かれけり 短夜 時候           4905 明治36年 夏の部 短れのがけに見えてきみだる 五月雨 天文           4906 明治36年 夏の部 様名の紙がけに見えてきみだる 五月雨 天文           4907 明治36年 夏の部 株名の紙がはんびに見れてきぬがけに見んできみだる	4876	明治36年	夏の部	薬ふる我庭黄ばむ梅一樹	薬ふる	天文
## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	4877	明治36年	夏の部	薬狩いやしからざる主從かな	藥日	人事
4881         明治36年         夏の部         耳あれば天地五月の雲の音         五月         時候           4883         明治36年         夏の部         この頃の日ッ本の國あけやすき         短夜         時候           4884         明治36年         夏の部         服の前の紅花盛りなり夏霞         紅花         植物           4886         明治36年         夏の部         職の前の紅花盛りなり夏霞         紅花         植物           4886         明治36年         夏の部         等間に茶の湯もすなり簟         童         人事           4887         明治36年         夏の部         等間に茶の湯もすなり簟         童         人事           4889         明治36年         夏の部         婆子饒舌梅干の壷仆しけり         梅干す         人事           4890         明治36年         夏の部         裏本の表す子子土         裏本         人事           4891         明治36年         夏の部         裏なし井必然がでて来る神馬哉         夏神樂         人事           4892         明治36年         夏の部         露凉し井の木の朝日影         夏の露         天文           4893         明治36年         夏の部         露凉し井の本の連         夏の露         天文           4894         明治36年         夏の部         露京し木を心がしたり舟         夏の露         天文           4895         明治36年         夏の部         大とは本を心がしたり舟         夏の         大文           4897	4878	明治36年	夏の部	藥草を採り藥草を干す一日哉	藥日	人事
4883         明治36年         夏の部         この頃の日ッ本の國あけやすき         短夜         時候           4884         明治36年         夏の部         五月雨やいって追手が呼ばふ声         五月雨         天文           4885         明治36年         夏の部         眼の前の紅花盛りなり夏霞         紅花         植物           4886         明治36年         夏の部         簟童子も雲の奇を了す         簟         人事           4887         明治36年         夏の部         等関に茶の湯もすなり簟         簟         人事           4889         明治36年         夏の部         婆子饒舌梅干の壷仆しけり         梅干す         人事           4889         明治36年         夏の部         婆子饒舌梅干の壷仆しけり         梅干す         人事           4890         明治36年         夏の部         墓水の浴で子を着子しし         裏水         人事           4891         明治36年         夏の部         露凉し朴の朴の朝日影         夏の露         天文           4893         明治36年         夏の部         露凉し朴の朴の朝目影         夏の露         天文           4894         明治36年         夏の部         露凉し木末に消ゆるは>き星         夏の露         天文           4895         明治36年         夏の部         露夜としたとのよっさる         昼夜         時候           4897         明治36年         夏の部         短夜の人や丘見の見ら         短夜         時候           4900 <td>4879</td> <td>明治36年</td> <td>夏の部</td> <td>競かりこの頃道士庵にあり</td> <td>競馬</td> <td>人事</td>	4879	明治36年	夏の部	競かりこの頃道士庵にあり	競馬	人事
4884         明治36年         夏の部         五月雨やいって追手が呼ばふ声         五月雨         天文           4885         明治36年         夏の部         眼の前の紅花盛りなり夏霞         紅花         植物           4886         明治36年         夏の部         簟童子も雲の奇を了す         簟         人事           4887         明治36年         夏の部         等閑に茶の湯もすなり簟         簟         人事           4889         明治36年         夏の部         隣に水飯空し簟         簟         人事           4890         明治36年         夏の部         養水の其交や君子也         葛水         人事           4891         明治36年         夏の部         夏の離         天文           4892         明治36年         夏の部         露京し朴の林の朝日影         夏の露         天文           4893         明治36年         夏の部         露京し木の林の朝日影         夏の露         天文           4894         明治36年         夏の部         露京し木末に消ゆるはゝき星         夏の露         天文           4895         明治36年         夏の部         露京し木末に消ゆるはゝき星         夏の露         天文           4896         明治36年         夏の部         短夜の人や丘見の見白き         短夜         時候           4899         明治36年         夏の部         短夜や人をあやしむとめ木の香         短夜         時候           4900         明治36年 <t< td=""><td>4881</td><td>明治36年</td><td>夏の部</td><td>耳あれば天地五月の雲の音</td><td>五月</td><td>時候</td></t<>	4881	明治36年	夏の部	耳あれば天地五月の雲の音	五月	時候
4885         明治36年         夏の部         眼の前の紅花盛りなり夏霞         紅花         植物           4886         明治36年         夏の部         簟童子も雲の奇を了す         簟         人事           4887         明治36年         夏の部         等閑に茶の湯もすなり簟         簟         人事           4888         明治36年         夏の部         婆子饒舌梅干の壷仆しけり         梅干寸         人事           4890         明治36年         夏の部         葛木の其交や君子也         葛木         人事           4891         明治36年         夏の部         夏本水浴びて来る神馬哉         夏中樂         人事           4891         明治36年         夏の部         露京し朴の林の朝日影         夏の露         天文           4892         明治36年         夏の部         露京し林橋熟して紅に         夏の露         天文           4893         明治36年         夏の部         露京し林橋熟して紅に         夏の露         天文           4894         明治36年         夏の部         露京し木末に消ゆるはゝき星         夏の露         天文           4895         明治36年         夏の部         青芒山家の鍋に洗飯         青芒         植物           4896         明治36年         夏の部         短夜の人人をあやしむとめ木の香         短夜         時候           4899         明治36年         夏の部         極夜や人をあやしむとめ木の香         短夜         時候           4901	4883	明治36年	夏の部	この頃の日ッ本の國あけやすき	短夜	時候
4886         明治36年         夏の部         簟童子も雲の奇を了す         簟         人事           4887         明治36年         夏の部         等閑に茶の湯もすなり簟         簟         人事           4888         明治36年         夏の部         婆子饒舌梅干の壷仆しけり         梅干寸         人事           4890         明治36年         夏の部         葛水の其交や君子也         葛水         人事           4891         明治36年         夏の部         夏神樂水浴びて来る神馬哉         夏神樂         人事           4892         明治36年         夏の部         露京し村の林の朝日影         夏の露         天文           4893         明治36年         夏の部         露京し村の林の朝日影         夏の露         天文           4894         明治36年         夏の部         露京し林檎熟して紅に         夏の露         天文           4895         明治36年         夏の部         露京し林檎熟して紅に         夏の露         天文           4896         明治36年         夏の部         露でし木末に消ゆるはゝき星         夏の露         天文           4897         明治36年         夏の部         短夜の人や丘見の白き         短夜         時候           4899         明治36年         夏の部         短夜の棒しむとめ木の香         短夜         時候           4900         明治36年         夏の部         短夜の藤へ人をあやしむとめ木の香         短夜         時候           4901	4884	明治36年	夏の部	五月雨やいって追手が呼ばふ声	五月雨	天文
## 1887 明治36年 夏の部 等関に茶の湯もすなり簟 簟 人事 4888 明治36年 夏の部 陶に水飯空し簟 簟 人事 4889 明治36年 夏の部 婆子饒舌梅干の壷仆しけり 梅干す 人事 4890 明治36年 夏の部 葛水の其交や君子也 葛水 人事 4891 明治36年 夏の部 夏神樂水浴びて来る神馬哉 夏神樂 人事 4892 明治36年 夏の部 露凉し朴の林の朝日影 夏の露 天文 4893 明治36年 夏の部 露凉し軒端の草に茶の煙 夏の露 天文 4894 明治36年 夏の部 露凉し木橋熟して紅に 夏の露 天文 4895 明治36年 夏の部 露京し保津の朝川くだり舟 夏の露 天文 4896 明治36年 夏の部 露京し木末に消ゆるはゝき星 夏の露 天文 4897 明治36年 夏の部 「春芒山家の鍋に洗飯 青芒 植物 4898 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の見白き 短夜 時候 4900 明治36年 夏の部 短夜の鳴ーしきりちり松葉 短夜 時候 4901 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり 短夜 時候 4902 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり 短夜 時候 4902 明治36年 夏の部 五月雨や家をめぐりて当帰畑 五月雨 天文 4903 明治36年 夏の部 五月雨や家をめぐりて当帰畑 五月雨 天文 4904 明治36年 夏の部 五月雨の薬色づく日の光り 五月雨 天文 4905 明治36年 夏の部 結れの拓がに見えてさみだるゝ 五月雨 天文 4906 明治36年 夏の部 結れの花したるたる 掠梠の花 植物 4907 明治36年 夏の部 棕梠の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物 4907 明治36年 夏の部 棕梠の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物 4908 明治36年 夏の部 棕梠の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物	4885	明治36年	夏の部	眼の前の紅花盛りなり夏霞	紅花	植物
4888 明治36年 夏の部 陶に水飯空し簟         簟         人事           4889 明治36年 夏の部 婆子饒舌梅干の壷仆しけり 梅干す 人事         4890 明治36年 夏の部 葛水の其交や君子也 葛水 人事         葛水 人事           4891 明治36年 夏の部 夏神樂水浴びて来る神馬哉 夏神樂 人事         夏神樂 人事           4892 明治36年 夏の部 露凉し朴の林の朝日影 夏の露 天文         夏の露 天文           4893 明治36年 夏の部 露凉し軒端の草に茶の煙 夏の露 天文         夏の露 天文           4894 明治36年 夏の部 露京し木未に消ゆるはこち星 夏の露 天文         東の露 天文           4895 明治36年 夏の部 露京し木末に消ゆるはこち星 夏の露 天文         東世山家の鍋に洗飯 青芒 植物           4897 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の見白き 短夜 時候         短夜 時候           4899 明治36年 夏の部 短夜の晩ーしきりちり松葉 短夜 時候         短夜 時候           4900 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり 短夜 時候         短夜 時候           4901 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり 短夜 時候         毎02 明治36年 夏の部 五月雨や家をめぐりて当帰畑 五月雨 天文           4903 明治36年 夏の部 五月下交をめぐりて当帰畑 五月雨 天文         五月雨 天文           4904 明治36年 夏の部 五月雨の寮をづく日の光り 五月雨 天文         五月雨 天文           4905 明治36年 夏の部 左月雨の寮色づく日の光り 五月雨 天文         五月雨 天文           4906 明治36年 夏の部 左月雨の寮色づく日の光り 五月雨 天文         毎物           4907 明治36年 夏の部 棕梠の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物         棕梠の花 植物           4908 明治36年 夏の部 棕梠の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物           4908 明治36年 夏の部 棕梠の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物	4886	明治36年	夏の部	簟童子も雲の奇を了す	簟	人事
4889 明治36年 夏の部 婆子饒舌梅干の壷仆しけり         梅干す 人事           4890 明治36年 夏の部 葛水の其交や君子也         葛水 人事           4891 明治36年 夏の部 夏神樂水浴びて来る神馬哉         夏神樂           4892 明治36年 夏の部 露凉し朴の林の朝日影         夏の露           4893 明治36年 夏の部 露凉し軒端の草に茶の煙         夏の露           4894 明治36年 夏の部 露京し木木の排の場に不変に         夏の露           4895 明治36年 夏の部 露京し木末に消ゆるはゝき星         夏の露           4896 明治36年 夏の部 露京し木末に消ゆるはゝき星         夏の露           4897 明治36年 夏の部 唇でし木末に消ゆるはゝき星         夏の露           4898 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の見白き         短夜           4899 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の見白き         短夜           4900 明治36年 夏の部 短夜の聴しときりちり松葉         短夜           4901 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり         短夜           4902 明治36年 夏の部 五月雨や家をめぐりて当帰畑         五月雨         天文           4903 明治36年 夏の部 五月雨や家をめぐりて当帰畑         五月雨         天文           4904 明治36年 夏の部 五月雨の素色づく日の光り         五月雨         天文           4905 明治36年 夏の部 本月雨の素色づく日の光り         五月雨         天文           4906 明治36年 夏の部 株侶の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物         棕梠の花 植物           4907 明治36年 夏の部 特侶の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物           4908 明治36年 夏の部 特侶の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物           4908 明治36年 夏の部 棕梠の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物	4887	明治36年	夏の部	等閑に茶の湯もすなり簟	簟	人事
4890 明治36年 夏の部	4888	明治36年	夏の部	陶に水飯空し簟	簟	人事
4891 明治36年 夏の部 夏神樂水浴びて来る神馬哉         夏神樂         人事           4892 明治36年 夏の部 露凉し朴の林の朝日影         夏の露         天文           4893 明治36年 夏の部 露凉し軒端の草に茶の煙         夏の露         天文           4894 明治36年 夏の部 露凉し杯檎熟して紅に         夏の露         天文           4895 明治36年 夏の部 露凉し木木に消ゆるはゝき星         夏の露         天文           4896 明治36年 夏の部 露凉し木末に消ゆるはゝき星         夏の露         天文           4897 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の兒白き         短夜         時候           4899 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の兒白き         短夜         時候           4900 明治36年 夏の部 短夜の時ーしきりちり松葉         短夜         時候           4901 明治36年 夏の部 短夜の時ーしきりちり松葉         短夜         時候           4902 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり         五月雨         天文           4903 明治36年 夏の部 雨五月いつこ鴬啼にけり         五月雨         天文           4904 明治36年 夏の部 紫陽花の妬げに見えてさみだるゝ         五月雨         天文           4905 明治36年 夏の部 五月雨の楽色づく日の光り         五月雨         天文           4906 明治36年 夏の部 柚の花は香にこぼれけり棕梠の花 棕梠の花 植物         たれの花風雨頻りに至る夕         棕梠の花         植物           4907 明治36年 夏の部 棕梠の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花         棕梠の花風雨板りに至る夕         棕梠の花         植物           4908 明治36年 夏の部 特権の花風雨頻りに至る夕         棕梠の花風雨板りに至る夕         棕根の花	4889	明治36年	夏の部	婆子饒舌梅干の壷仆しけり	梅干す	人事
4892 明治36年 夏の部       露凉し朴の林の朝日影       夏の露       天文         4893 明治36年 夏の部       露凉し軒端の草に茶の煙       夏の露       天文         4894 明治36年 夏の部       露凉し林檎熟して紅に       夏の露       天文         4895 明治36年 夏の部       露京し木木に消ゆるはゝき星       夏の露       天文         4896 明治36年 夏の部       青芒山家の鍋に洗飯       青芒       植物         4898 明治36年 夏の部       短夜の人や丘見の見自き       短夜       時候         4899 明治36年 夏の部       短夜の様へ人をあやしむとめ木の香       短夜       時候         4900 明治36年 夏の部       短夜の晦ーしきりちり松葉       短夜       時候         4901 明治36年 夏の部       短夜のありのすさびも掃かれけり       短夜       時候         4902 明治36年 夏の部       雨五月いつこ鴬啼にけり       五月雨       天文         4903 明治36年 夏の部       五月雨や家をめぐりて当帰畑       五月雨       天文         4904 明治36年 夏の部       五月雨の楽色づく日の光り       五月雨       天文         4905 明治36年 夏の部       本月雨の楽色づく日の光り       五月雨       天文         4906 明治36年 夏の部       柚の花は香にこぼれけり棕梠の花       棕梠の花       植物         4907 明治36年 夏の部       様名の花園の部       棕梠の花園の花       棺物         4908 明治36年 夏の部       大名の部       株名の花園の花園の花園の花園の花園の花園の花園の花園の花園の花園の花園の花園の花園の	4890	明治36年	夏の部	葛水の其交や君子也	葛水	人事
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	4891	明治36年	夏の部	夏神樂水浴びて来る神馬哉	夏神樂	人事
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	4892	明治36年	夏の部	露凉し朴の林の朝日影	夏の露	天文
## 4895 明治36年 夏の部 露すゞし保津の朝川くだり舟 夏の露 天文 4896 明治36年 夏の部 露凉し木末に消ゆるはゝき星 夏の露 天文 4897 明治36年 夏の部 青芒山家の鍋に洗飯 青芒 植物 4898 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の皃白き 短夜 時候 4899 明治36年 夏の部 短夜の長しむとめ木の香 短夜 時候 4900 明治36年 夏の部 短夜の曉一しきりちり松葉 短夜 時候 4901 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり 短夜 時候 4902 明治36年 夏の部 雨五月いつこ鴬啼にけり 五月雨 天文 4903 明治36年 夏の部 五月雨や家をめぐりて当帰畑 五月雨 天文 4904 明治36年 夏の部 本月市の寮色づく日の光り 五月雨 天文 4905 明治36年 夏の部 柚の花は香にこぼれけり棕梠の花 棕梠の花 植物 4907 明治36年 夏の部 棕梠の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物 4908 明治36年 夏の部 野雀や棕梠の莟を弄ぶ 棕梠の花 植物	4893	明治36年	夏の部	露凉し軒端の草に茶の煙	夏の露	天文
## 4896 明治36年 夏の部 露凉し木末に消ゆるはゝき星 夏の露 天文 4897 明治36年 夏の部 青芒山家の鍋に洗飯 青芒 植物 4898 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の皃白き 短夜 時候 4899 明治36年 夏の部 短夜の人や丘見の皃白き 短夜 時候 4900 明治36年 夏の部 短夜の時ーしきりちり松葉 短夜 時候 4901 明治36年 夏の部 短夜のありのすさびも掃かれけり 短夜 時候 4902 明治36年 夏の部 雨五月いつこ鴬啼にけり 五月雨 天文 4903 明治36年 夏の部 五月雨や家をめぐりて当帰畑 五月雨 天文 4904 明治36年 夏の部 五月雨の素色づく日の光り 五月雨 天文 4905 明治36年 夏の部 抽の花は香にこぼれけり棕梠の花 棕梠の花 植物 4907 明治36年 夏の部 棕梠の花風雨頻りに至る夕 棕梠の花 植物 4908 明治36年 夏の部 野雀や棕梠の莟を弄ぶ 棕梠の花 植物	4894	明治36年	夏の部	露凉し林檎熟して紅に	夏の露	天文
4897明治36年夏の部青芒山家の鍋に洗飯青芒植物4898明治36年夏の部短夜の人や丘見の見白き短夜時候4899明治36年夏の部短夜や人をあやしむとめ木の香短夜時候4900明治36年夏の部短夜の曉一しきりちり松葉短夜時候4901明治36年夏の部短夜のありのすさびも掃かれけり短夜時候4902明治36年夏の部五月雨天文4903明治36年夏の部五月雨や家をめぐりて当帰畑五月雨天文4904明治36年夏の部紫陽花の妬げに見えてさみだるゝ五月雨天文4905明治36年夏の部抽の花は香にこぼれけり棕梠の花棕梠の花植物4907明治36年夏の部棕梠の花風雨頻りに至る夕棕梠の花植物4908明治36年夏の部野雀や棕梠の莟を弄ぶ棕梠の花植物	4895	明治36年	夏の部	露すゞし保津の朝川くだり舟	夏の露	天文
4898明治36年夏の部短夜の人や丘見の皃白き短夜時候4899明治36年夏の部短夜や人をあやしむとめ木の香短夜時候4900明治36年夏の部短夜の曉一しきりちり松葉短夜時候4901明治36年夏の部短夜のありのすさびも掃かれけり五月雨天文4902明治36年夏の部雨五月いつこ鴬啼にけり五月雨天文4903明治36年夏の部五月雨や家をめぐりて当帰畑五月雨天文4904明治36年夏の部紫陽花の妬げに見えてさみだるゝ五月雨天文4905明治36年夏の部五月雨の棗色づく日の光り五月雨天文4906明治36年夏の部柚の花は香にこぼれけり棕梠の花棕梠の花植物4907明治36年夏の部棕梠の花風雨頻りに至る夕棕梠の花植物4908明治36年夏の部野雀や棕梠の莟を弄ぶ棕梠の花植物	4896	明治36年	夏の部	露凉し木末に消ゆるはゝき星	夏の露	天文
4899明治36年夏の部短夜や人をあやしむとめ木の香短夜時候4900明治36年夏の部短夜の聴一しきりちり松葉短夜時候4901明治36年夏の部短夜のありのすさびも掃かれけり短夜時候4902明治36年夏の部雨五月いつこ鴬啼にけり五月雨天文4903明治36年夏の部五月雨や家をめぐりて当帰畑五月雨天文4904明治36年夏の部紫陽花の妬げに見えてさみだる♪五月雨天文4905明治36年夏の部五月雨の楽色づく日の光り五月雨天文4906明治36年夏の部柚の花は香にこぼれけり棕梠の花棕梠の花植物4907明治36年夏の部棕梠の花風雨頻りに至る夕棕梠の花植物4908明治36年夏の部野雀や棕梠の莟を弄ぶ棕梠の花植物	4897	明治36年	夏の部	青芒山家の鍋に洗飯	青芒	植物
4900明治36年夏の部短夜の曉一しきりちり松葉短夜時候4901明治36年夏の部短夜のありのすさびも掃かれけり短夜時候4902明治36年夏の部雨五月いつこ鴬啼にけり五月雨天文4903明治36年夏の部五月雨や家をめぐりて当帰畑五月雨天文4904明治36年夏の部紫陽花の妬げに見えてさみだるゝ五月雨天文4905明治36年夏の部五月雨の楽色づく日の光り五月雨天文4906明治36年夏の部柚の花は香にこぼれけり棕梠の花棕梠の花植物4907明治36年夏の部棕梠の花風雨頻りに至る夕棕梠の花植物4908明治36年夏の部野雀や棕梠の莟を弄ぶ棕梠の花植物	4898	明治36年	夏の部	短夜の人や丘見の皃白き	短夜	時候
4901明治36年夏の部短夜のありのすさびも掃かれけり短夜時候4902明治36年夏の部雨五月いつこ鴬啼にけり五月雨天文4903明治36年夏の部五月雨や家をめぐりて当帰畑五月雨天文4904明治36年夏の部紫陽花の妬げに見えてさみだる > 五月雨天文4905明治36年夏の部五月雨の棗色づく日の光り五月雨天文4906明治36年夏の部柚の花は香にこぼれけり棕梠の花棕梠の花植物4907明治36年夏の部棕梠の花風雨頻りに至る夕棕梠の花植物4908明治36年夏の部野雀や棕梠の莟を弄ぶ棕梠の花植物	4899	明治36年	夏の部	短夜や人をあやしむとめ木の香	短夜	時候
4902       明治36年       夏の部       雨五月いつこ鴬啼にけり       五月雨       天文         4903       明治36年       夏の部       五月雨や家をめぐりて当帰畑       五月雨       天文         4904       明治36年       夏の部       紫陽花の妬げに見えてさみだるゝ       五月雨       天文         4905       明治36年       夏の部       五月雨の楽色づく日の光り       五月雨       天文         4906       明治36年       夏の部       柚の花は香にこぼれけり棕梠の花       棕梠の花       植物         4907       明治36年       夏の部       棕梠の花風雨頻りに至る夕       棕梠の花       植物         4908       明治36年       夏の部       野雀や棕梠の莟を弄ぶ       棕梠の花       植物	4900	明治36年	夏の部	短夜の曉一しきりちり松葉	短夜	時候
4903明治36年夏の部五月雨や家をめぐりて当帰畑五月雨天文4904明治36年夏の部紫陽花の妬げに見えてさみだる〉五月雨天文4905明治36年夏の部五月雨の寮色づく日の光り五月雨天文4906明治36年夏の部柚の花は香にこぼれけり棕梠の花棕梠の花植物4907明治36年夏の部棕梠の花風雨頻りに至る夕棕梠の花植物4908明治36年夏の部野雀や棕梠の莟を弄ぶ棕梠の花植物	4901	明治36年	夏の部	短夜のありのすさびも掃かれけり	短夜	時候
4904     明治36年     夏の部     紫陽花の妬げに見えてさみだるゝ     五月雨     天文       4905     明治36年     夏の部     五月雨の棗色づく日の光り     五月雨     天文       4906     明治36年     夏の部     柚の花は香にこぼれけり棕梠の花     棕梠の花     植物       4907     明治36年     夏の部     棕梠の花風雨頻りに至る夕     棕梠の花     植物       4908     明治36年     夏の部     野雀や棕梠の莟を弄ぶ     棕梠の花     植物	4902	明治36年	夏の部	雨五月いつこ鴬啼にけり	五月雨	天文
4905       明治36年       夏の部       五月雨の楽色づく日の光り       五月雨       天文         4906       明治36年       夏の部       柚の花は香にこぼれけり棕梠の花       棕梠の花       植物         4907       明治36年       夏の部       棕梠の花風雨頻りに至る夕       棕梠の花       植物         4908       明治36年       夏の部       野雀や棕梠の莟を弄ぶ       棕梠の花       植物	4903	明治36年	夏の部	五月雨や家をめぐりて当帰畑	五月雨	天文
4906     明治36年     夏の部     柚の花は香にこぼれけり棕梠の花     棕梠の花     植物       4907     明治36年     夏の部     棕梠の花風雨頻りに至る夕     棕梠の花     植物       4908     明治36年     夏の部     野雀や棕梠の莟を弄ぶ     棕梠の花     植物	4904	明治36年	夏の部	紫陽花の妬げに見えてさみだるゝ	五月雨	天文
4907     明治36年     夏の部     棕梠の花風雨頻りに至る夕     棕梠の花     植物       4908     明治36年     夏の部     野雀や棕梠の莟を弄ぶ     棕梠の花     植物	4905	明治36年	夏の部	五月雨の棗色づく日の光り	五月雨	天文
4908     明治36年     夏の部     野雀や棕梠の莟を弄ぶ     棕梠の花     植物	4906		夏の部	柚の花は香にこぼれけり棕梠の花	棕梠の花	植物
	4907	明治36年		- 棕梠の花風雨頻りに至る夕	棕梠の花	植物
4909   明治36年   夏の部   棕梠の花庭木の中にかそへけり   棕梠の花   植物	4908					
	4909	明治36年	夏の部	棕梠の花庭木の中にかそへけり	棕梠の花	植物

1

			多の即		
No.	作句年	部	俳 句	季語	分類
4910	明治36年	夏の部	花棕梠の畑は四月の天氣哉	棕梠の花	植物
4911	明治36年	夏の部	花棕梠や畑の隅なる青山椒	棕梠の花	植物
4912	明治36年	夏の部	絵日个にかくれて兒のありきけり	日傘	人事
4913	明治36年	夏の部	日仐して舟に河水を掬ひけり	日傘	人事
4914	明治36年	夏の部	藍刈と物打語る日仐人	日傘	人事
4915	明治36年	夏の部	日仐たゝみ林檎の下に立寄りぬ	日傘	人事
4916	明治36年	夏の部	短夜の聞知らぬ鳥山の宿	短夜	時候
4917	明治36年	夏の部	短夜の皃も洗ハず鴉かな	短夜	時候
4918	明治36年	夏の部	島原を畑に見てゆく日仐哉	日傘	人事
4919	明治36年	夏の部	青梅を人の日仐につふて哉	雑	雑
4920	明治36年	夏の部	短夜を鳴残る蛙一ツ哉	短夜	時候
4921	明治36年	夏の部	五月雨や杉伐仆す橋わたし	五月雨	天文
4922	明治36年	夏の部	獨活畑のうど採尽す棕梠の花	棕梠の花	植物
4923	明治36年	夏の部	机に灯古人蚊をやく辞あり	蚊	動物
4924	明治36年	夏の部	棕梠の花竹原出る小嘍囉	棕梠の花	植物
4925	明治36年	夏の部	五月雨道にふまるゝあやめ草	五月雨	天文
4926	明治36年	夏の部	五月雨や塩くさき飽く蕨汁	五月雨	天文
4927	明治36年	夏の部	短夜の餘花にあけたり山かつら	短夜	時候
4928	明治36年	夏の部	短夜の牡丹を惜む主かな	短夜	時候
4929	明治36年	夏の部	蚊を打て再び呪文髙らかに	蚊	動物
4930	明治36年	夏の部	目をとぢて蚊の鳴く方を定めけり	蚊	動物
4931	明治36年	夏の部	冷飯に蚊も秋近くなりにけり	蚊	動物
4932	明治36年	夏の部	曉の蚊の乾をさして飛去りぬ	蚊	動物
4933	明治36年	夏の部	戀に蚊に物の哀を覚えけり	蚊	動物
4934	明治36年	夏の部	昼の蚊やみすより人を覗く程に	蚊	動物
4935	明治36年	夏の部	大佛や日仐かたげて人のゆく	日傘	人事
4936	明治36年	夏の部	かちわたり河原をありく日仐哉	日傘	人事
4937	明治36年	夏の部	顔や日仐の中の日の匂ひ	日傘	人事
4938	明治36年	夏の部	日仐たゝめば木間もる日や顔に照る	日傘	人事
4939	明治36年	夏の部	花棕梠やかたち醜き寺男	棕梠の花	植物
4940	明治36年	夏の部	花棕梠や寺僧頑に叱る声	棕梠の花	植物
4941	明治36年	夏の部	さみだるゝ牧場に馬もなかりけり	五月雨	天文
4942	明治36年	夏の部	蚊をやくや夜の活花蚊帳越に	蚊	動物
4943	明治36年	夏の部	うはなりのひた憎む蚊や古行灯	蚊	動物
4944	明治36年	夏の部	蝋燭や法幢に蚊も寄つかず	蚊	動物
4945	明治36年	夏の部	五月雨やよしある里の花かつみ	五月雨	天文
4946	明治36年	夏の部	五月雨の雲や柴胡のむら茂り	五月雨	天文
4948	明治36年	夏の部	ゆけ、われ蛇斬ると夢みたり	蛇	動物
4949	明治36年	夏の部	河骨に蜻蜓始めて飛ぶ日哉	蜻蛉	動物
4950	明治36年	夏の部	水馬頻りに飛ぶも恋の事	水馬	動物
4951	明治36年	夏の部	薫風や故郷の路の花茨	薫風	天文
4952	明治36年	夏の部	凉しさにラムネの玉を鳴らしけり	凉し	時候
4953	明治36年	夏の部	ふじ詣裾野の小家立出でぬ	富士詣	人事
4954	明治36年	夏の部	鄙の宿燈心草も花咲きぬ	燈心草の花	植物
4955	明治36年	夏の部	黄梅の雨や寺僧の詩三昧	黄梅	植物
4956	明治36年	夏の部	風凉し龍をはしらす墨の痕	凉し	時候
4957	明治36年	夏の部	若竹に小督の墓を弔へり	若竹	植物
4958	明治36年	夏の部	燕子花活けあまりたる廣葉哉	杜若	植物

			交び叫		
No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4959	明治36年	夏の部	葛水や老来の歯も爽かに	葛水	人事
4960	明治36年	夏の部	うの花の主と申せ蝸牛	蝸牛	動物
4961	明治36年	夏の部	あちさゐや小家にしるき異種	紫陽花	植物
4962	明治36年	夏の部	雲の峰日たゝ西吹く形哉	雲の峰	天文
4963	明治36年	夏の部	あちさゐに或はかゝるゝ寺子哉	紫陽花	植物
4964	明治36年	夏の部	葛水や馬も凉しき木下蔭	葛水	人事
4965	明治36年	夏の部	絵扇をすさびにすなる力士哉	絵扇	人事
4966	明治36年	夏の部	角ふるや物きゝわけてかたつむり	蝸牛	動物
4967	明治36年	夏の部	大衆の打眠うかがふ蝸牛	蝸牛	動物
4968	明治36年	夏の部	紫陽花の色に迷へり蝸牛	蝸牛	動物
4969	明治36年	夏の部	伸上りてゝむし思ふ所あり	蝸牛	動物
4970	明治36年	夏の部	雲の峰六尺の百合花開く	雲の峰	天文
4971	明治36年	夏の部	王城の鬼門に当り雲の峰	雲の峰	天文
4972	明治36年	夏の部	ちるけしの葉末や雲峰低し	雲の峰	天文
4973	明治36年	夏の部	君が手の扇の影や草合	扇	人事
4974	明治36年	夏の部	扇つかひ顔に紅うつりけり	扇	人事
4975	明治36年	夏の部	あちさゐのいやしき様や夜店の灯	紫陽花	植物
4976	明治36年	夏の部	紫陽花に蛇打逃がす茂り哉	紫陽花	植物
4977	明治36年	夏の部	紫陽花に日うとき樫の廣葉哉	紫陽花	植物
4978	明治36年	夏の部	葛のんで土器に水そゝきけり	葛水	人事
4979	明治36年	夏の部	草清水人こほし去る葛粉哉	清水	地理
4980	明治36年	夏の部	葛水や白衣は人の潔き	葛水	人事
4981	明治36年	夏の部	市中の一本杉や雲の峯	雲の峰	天文
4982	明治36年	夏の部	床の間のあやめの丈や扇掛	あやめ	植物
4983	明治36年	夏の部	祭見る村のしこめも扇哉	扇	人事
4984	明治36年	夏の部	あけやすき我が宿水の音ばかり	短夜	時候
4985	明治36年	夏の部	栗の花颯然として雨到る	栗の花	植物
4986	明治36年	夏の部	夏の神夜は卽ち白衣哉	夏	時候
4987	明治36年		夏ざしき夕日が少しあたりけり	夏座敷	人事
4988	明治36年	夏の部	夏羽をり飄々として庭ありき	夏羽織	人事
4989	明治36年	夏の部	羽拔鳥蓴とる子の鼻の先	羽拔鳥	動物
4990	明治36年	夏の部	朝皃の苗に斑入をえらびけり	朝顔の苗	植物
4991	明治36年	夏の部	舟遊び舳に當り三日の月	舟遊	人事
4992	明治36年	夏の部	舟遊水の流に茶の烟	舟遊	人事
4993	明治36年	夏の部	舟遊眉をあぐれば嵐山	舟遊	人事
4994	明治36年	夏の部	舟遊舟ばたに立つ美少年	舟遊	人事
4995	明治36年	夏の部	舟遊去来は酒に遠さかり	舟遊	人事
4996	明治36年	夏の部	かへり見る活花の間や簟	簟 44	人事
4997	明治36年	夏の部		簟	人事
4998	明治36年	夏の部	管独坐に近き月見艸	簟	人事
4999	明治36年	夏の部	<b>簟足ふみ伸ばす雲の上</b>	簟	人事
5000	明治36年	夏の部		簟	人事
5001	明治36年	夏の部	簟花が目につく女童     はたまなます。	簟	人事
5002	明治36年	夏の部	蚊帳越や夜の活花白き花	蚊帳	人事
5003	明治36年	夏の部	蚊帳去るや枕に近く青表紙	蚊帳	人事
5004	明治36年	夏の部	蚊帳の中故人は旅につかれけり	蚊帳	人事
5005	明治36年	夏の部	蚊帳を出て夏朝皃に見入りけり	蚊帳	人事
5006	明治36年	夏の部	稲妻に玉巻芭蕉秀でたり	芭蕉玉卷	植物

			~ · · Fi		
No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5007	明治36年	夏の部	風鈴に新体の詩を咏じけり	風鈴	人事
5008	明治36年	夏の部	昼皃や道に死居る蝉暑し	晝顔	植物
5009	明治36年	夏の部	甘酒に客昼の蚊を憎みけり	蚊	動物
5010	明治36年	夏の部	目すぶしく眉秀でたり夏書人	夏書	人事
5011	明治36年	夏の部	ラムネのむやいさゝかの酒の醉心地	ラムネ	人事
5012	明治36年	夏の部	大原女の面もふらず草いきれ	草いきれ	植物
5013	明治36年	夏の部	法の風蓮の花の開く音	蓮	植物
5014	明治36年	夏の部	蓴つみ蓮の浮葉もたぐりけり	<b></b>	植物
5015	明治36年	夏の部	盆栽の蓮も咲いて水乏し	蓮	植物
5016	明治36年	夏の部	蓮の花くわゐの花も咲きにけり	蓮	植物
5017	明治36年	夏の部	蓮やせて浮草茂り咲にけり	蓮	植物
5018	明治36年	夏の部	蓮伐るや雨に驚く僧のさま	蓮	植物
5019	明治36年	夏の部	蓮さげて本堂をゆく尊さよ	蓮	植物
5020	明治36年	夏の部	白蓮の旦紅蓮の夕かな	蓮	植物
5021	明治36年	夏の部	河骨の群がり咲くや蓮の花	蓮	植物
5022	明治36年	夏の部	蓮見んと行くや蓮の朝月夜	蓮	植物
5023	明治36年	夏の部	銀燭や坐に水飯のうつはもの	水飯	人事
5024	明治36年	夏の部	水飯や皆銀のうつはもの	水飯	人事
5025	明治36年	夏の部	水飯や精進の日の昼灯	水飯	人事
5026	明治36年	夏の部	杣人の洗ひこぼしぬ洗飯	水飯	人事
5027	明治36年	夏の部	水飯や詩は性霊を貴べり	水飯	人事
5028	明治36年	夏の部	水飯や簀戸に遮る雨しぶき	水飯	人事
5029	明治36年	夏の部	水めしや紫陽花の色暮近き	水飯	人事
5030	明治36年	夏の部	水飯に昼の蚊一ツ見たりけり	水飯	人事
5031	明治36年	夏の部	水飯や句は天明を喜べり	水飯	人事
5032	明治36年	夏の部	水飯に奈良漬の香を憎みけり	水飯	人事
10581	明治36年	夏の部	蝙蝠や過て怪しきオロシヤ人	蝙蝠	動物
10595	明治36年	夏の部	蟷螂の生るゝ見ても佛かな	蟷螂	動物
10609	明治36年	夏の部	眠る山夫の洞庭の眺めかな	眺め	人事
5330	明治37年	夏の部	火事跡や風雨乱るゝ桐の花	桐の花	植物
5331	明治37年	夏の部	輪奐の美にかゞやけり桐の花	桐の花	植物
5332	明治37年	夏の部	鬱として野に垂る雲や桐の花	桐の花	植物
5333	明治37年	夏の部	桐の花落ちて微風を見たりけり	桐の花	植物
5334	明治37年	夏の部	花桐の露や残礎を乱れうつ	桐の花	植物
5335	明治37年	夏の部	歌人や羽拔の鳥に寄する戀	羽拔鳥	動物
5336	明治37年	夏の部	夏帽や皆林泉の客ばかり	夏帽子	人事
5337	明治37年	夏の部	夏座敷小寒きばかり雨中の景	夏座敷	人事
5338	明治37年	夏の部	梅雨晴に長袖の人や花棗	棗の花	植物
5339	明治37年	夏の部	避暑の客名を題壁に知られけり	避暑	人事
5340	明治37年	夏の部	午睡して居れば官人抂駕かな	晝寢	人事
5341	明治37年	夏の部	竹婦人東坡は室に居残りぬ	竹夫人	人事
5342	明治37年	夏の部	夏菊や婆子に詩を問ふ白樂天	夏菊	植物
5343	明治37年	夏の部	水飯を喰こぼしけり長廣舌	水飯	人事
5344	明治37年	夏の部	貴人の前扇の風のあまり哉	扇	人事
5345	明治37年	夏の部	蝿を打つ臥龍先生二十八	蝿	動物
5346	明治37年	夏の部	はひを打つ惡道心が眼かな	蝿	動物
5347	明治37年	夏の部	夕立や物に恐るゝ蝿一つ	蝿	動物
5348	明治37年	夏の部	蝿を避けて庭の棗に遊びけり	蠅	動物

			及び印		
No.	作句年	部	俳  句	季語	分類
5350	明治37年	夏の部	蝿叩から/\と笑ひ給ふらん	蠅	動物
5351	明治37年	夏の部	枕頭の山水蚊帳に賓主かな	蚊帳	人事
5352	明治37年	夏の部	よき蚊帳も釣て松風蘿月哉	蚊帳	人事
5353	明治37年	夏の部	偸見る蚊帳にうまゐの皃白し	蚊帳	人事
5354	明治37年	夏の部	石山の旅泊や夏の夕ありき	夏の夕	時候
5355	明治37年	夏の部	夏の夕雨に還御の神輿かな	夏の夕	時候
5356	明治37年	夏の部	百日紅鶏の疫のはやる里	百日紅	植物
5357	明治37年	夏の部	秋近き宵ありきすや陰陽師	秋近し	時候
5358	明治37年	夏の部	冷汁に廬山の雨を偲びけり	冷汁	人事
5359	明治37年	夏の部	草取や痩田と見ゆる稲の丈	草取り	人事
5361	明治37年	夏の部	軍中の節度凉しき事ばかり	凉し	時候
5362	明治37年	夏の部	山の幸兄は照射に出てゝ行く	照射	人事
5363	明治37年	夏の部	雷落ちし官山の杉伐らせけり	雷	天文
5364	明治37年	夏の部	苔の花佛足石を冒しけり	苔の花	植物
5365	明治37年	夏の部	支那の人簞食の禮や夏柳	夏柳	植物
5366	明治37年	夏の部	夏書の間只山僧の入るを許す	夏書	人事
5367	明治37年	夏の部	將軍の磊落として一夜酒	甘酒	人事
5368	明治37年	夏の部	不二小屋の曉深き鑚火かな	富士詣	人事
5369	明治37年	夏の部	水辺やおどろ / \と不二行人	富士垢離	人事
5370	明治37年	夏の部	富士垢離や赤星の影清らかに	富士垢離	人事
5371	明治37年	夏の部	朔日の行事かしこし富士の坊	富士詣	人事
5372	明治37年	夏の部	語りつぎ云ひつぎ富士の道者哉	富士詣	人事
5373	明治37年	夏の部	髙山を前に控へて青すだれ	青簾	人事
5374	明治37年	夏の部	小説の女に似たり青すだれ	青簾	人事
5375	明治37年	夏の部	青すだれ酒に琥珀の光あり	青簾	人事
5376	明治37年	夏の部	青簾古器を並べて樂めり	青簾	人事
5377	明治37年	夏の部	青すだれ衣桁の衣のあからさま	青簾	人事
5378	明治37年	夏の部	大勢に膾料理や青すだれ	青簾	人事
5379	明治37年	夏の部	青すだれ清女が老を覗きけり	青簾	人事
5380	明治37年	夏の部	青すだれ寂寞として古佛像	青簾	人事
5381	明治37年	夏の部	青すだれ老僧まかり出にけり	青簾	人事
5382	明治37年	夏の部	青簾松の嵐の寒き程	青簾	人事
5383	明治37年	夏の部	葉桜やよき水を射る日の光	葉櫻	植物
5384	明治37年	夏の部	一陣の風千木の幟かな	幟	人事
5385	明治37年	夏の部	草の上に招魂壇や羽蟻飛ぶ	羽蟻	動物
5386	明治37年	夏の部	衣更南枝に巣ふ鳥悲し	更衣	人事
5387	明治37年	夏の部	浮巣すゞし真菰の中の朝月夜	真菰	植物
5388	明治37年	夏の部	うはゝみの鱗を見たる照射哉	蛇	動物
5390	明治37年	夏の部	はかなさは青梅落つと見たりけり	梅の實	植物
5391	明治37年	夏の部	僧よりも髙き芭蕉の巻葉哉	芭蕉玉卷	植物
5392	明治37年	夏の部	衣更皆うつくしき皃ばかり	更衣	人事
5393	明治37年	夏の部	うつくしき皃そろへたる袷かな	袷	人事
5394	明治37年	夏の部	月の暈牡丹くづるゝ夜なりけり	牡丹	植物
5395	明治37年	夏の部	夏やすみ妹としたしむ林檎哉	夏休み	人事
5396	明治37年	夏の部	雲割れて河骨の黄にさす日かな	河骨	植物
5397	明治37年	夏の部	さらし井の不淨を神に恐れけり	井戸替え	人事
5398	明治37年	夏の部	蘭湯の浴終へて君王に侍す	蘭湯	人事
5399	明治37年	夏の部	夏の夕とぎすましたる翌日の鎌	夏の夕	時候

			及び印		
No.	作句年	部	俳  句	季語	分類
5400	明治37年	夏の部	夏の夕清女が老を過ぎりけり	夏の夕	時候
5401	明治37年	夏の部	夏の夕虹あか/\と山にあり	夏の夕	時候
5402	明治37年	夏の部	草の香に折ふし咽ぶ鹿の子哉	鹿の子	動物
5403	明治37年	夏の部	沢蘭に下りて遊べる鹿の子哉	鹿の子	動物
5404	明治37年	夏の部	梅雨晴の芝に鹿の子の蹄かな	鹿の子	動物
5405	明治37年	夏の部	社地ひろし鹿の子に馴れて飛燕	鹿の子	動物
5406	明治37年	夏の部	神木の露に驚く鹿の子哉	鹿の子	動物
5407	明治37年	夏の部	蚊帳して帝玉山頽れけり	蚊帳	人事
5408	明治37年	夏の部	兄弟が寝静まりたる蚊帳哉	蚊帳	人事
5409	明治37年	夏の部	竹の子の皮脱く頃を赦免かな	竹の皮脱ぐ	植物
5410	明治37年	夏の部	帽を振る登山の連や青すゝき	青芒	植物
5411	明治37年	夏の部	夏瘦の猶手に釈かず青表紙	夏瘦	人事
5412	明治37年	夏の部	よく育つ南瓜の花も大也	南瓜の花	植物
5413	明治37年	夏の部	行先に誰かは知らずともしかな	照射	人事
5414	明治37年	夏の部	維レ子子乾坤 / \とふる	孑孒	動物
5415	明治37年	夏の部	朝々や青田に夏の日を拜す	青田	地理
5416	明治37年	夏の部	山の裾頓に開けて青田哉	青田	地理
5417	明治37年	夏の部	街道の埃からぬ青田かな	青田	地理
5418	明治37年	夏の部	松明照す道の左右の青田哉	青田	地理
5419	明治37年	夏の部	雨上り水漫々と青田哉	青田	地理
5420	明治37年	夏の部	鍋祭筑摩の荘の美婦一人	筑摩祭	人事
5421	明治37年	夏の部	ねんごろの男一人や鍋祭	筑摩祭	人事
5422	明治37年	夏の部	卯の花や艶なる人の筑摩鍋	筑摩祭	人事
5423	明治37年	夏の部	催馬樂を謡ふ筑摩の祭人	筑摩祭	人事
5424	明治37年	夏の部	やごとなき神業にして筑摩鍋	筑摩祭	人事
5425	明治37年	夏の部	蟵たれて百合の花ほのかに白し	百合	植物
5426	明治37年	夏の部	百合さげて見知らぬ人の滝見哉	百合	植物
5427	明治37年	夏の部	等閑に百合も挿したるかほりか南	百合	植物
5428	明治37年	夏の部	百合活けて坐を立去りし美人哉	百合	植物
5429	明治37年	夏の部	百合の花美人の顔に映じけり	百合	植物
5430	明治37年	夏の部	水代へて残少なや冷瓜	冷瓜	人事
5431	明治37年	夏の部	蛛の囲のうたて覚ゆる御墓哉	蜘蛛	動物
5656	明治38年	夏の部	初茄子や世人は知らず俳体歌	茄子	植物
5657	明治38年	夏の部	妹が子は夏蚕の桑に納凉みけり	納凉	人事
5658	明治38年	夏の部	騎射の日の晨晴れたる翠微哉	騎射	人事
5659	明治38年	夏の部	弱冠にして出家す蓮の浮葉哉	蓮の浮葉	植物
5660	明治38年	夏の部	卯の花の家なる美婦を盗みけり	卯の花	植物
5661	明治38年	夏の部	夏浅き萠黄の山や湖の上	夏浅し	時候
5662	明治38年	夏の部	慵しや秋に近づく氷室守	氷室	人事
5663	明治38年	夏の部	盗人の跡に柘榴の落花哉	石榴の花	植物
5664	明治38年	夏の部	腹かけの紺の匂や心太	心太	人事
5665	明治38年	夏の部	筝に髀肉見せけり蝸牛	蝸牛	動物
5666	明治38年	夏の部	家に居て竹をうゑけり太史公	竹植る	人事
5667	明治38年	夏の部	竹うゑて猶紫陽花を存しけり	竹植る	人事
5668	明治38年	夏の部	絃誦の声を後ろや竹植うる	竹植る	人事
5669	明治38年	夏の部	蘇子が子ら退いて賦す種竹の詩	竹植る	人事
5670	明治38年	夏の部	竹うゑて二日三日や月円か	竹植る	人事
5671	明治38年	夏の部	虎渓よりかへす獨や木下闇	木下闇	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5672	明治38年	夏の部	挺ンでし朴の葉音や木下闇	木下闇	植物
5673	明治38年	夏の部	木下闇皆黄檗の法師原	木下闇	植物
5674	明治38年	夏の部	下闇や木を白うして文字を書く	木下闇	植物
5675	明治38年	夏の部	下闇や幻住菴へ二三人	木下闇	植物
5676	明治38年	夏の部	夏の月槐に深き住居かな	夏の月	天文
5677	明治38年	夏の部	雨ほしき暮となりけり韮の花	韮の花	植物
5678	明治38年	夏の部	游泳の戻りを咲きぬ月見草	月見草	植物
5679	明治38年	夏の部	朝月に浮巣の雛の眼あけゝり	浮巣	動物
5680	明治38年	夏の部	萬骨の枯れて蟷螂生れけり	蟷螂生る	動物
5681	明治38年	夏の部	潮浴びて新月かゝる頃しもや	海水浴	人事
5682	明治38年	夏の部	衣ぬいで蛇且つ所得顔かな	蛇衣を脱ぐ	動物
5683	明治38年	夏の部	水吹けば團扇もぬれつ蚊やり草	蚊遣	人事
5684	明治38年	夏の部	朝草を荷ひ渉るや夏の川	夏の川	地理
5685	明治38年	夏の部	流るゝに任す扇や河納凉	納凉	人事
5686	明治38年	夏の部	箒木の宿とこそ聞け月見草	月見草	植物
5687	明治38年	夏の部	夏衣念佛心起りけり	夏衣	人事
5688	明治38年	夏の部	蝿打て又や草廬を立去りぬ	蠅	動物
5689	明治38年	夏の部	霍乱の人に修法や泉殿	霍乱	人事
5690	明治38年	夏の部	夏瘦の朝暮に花を活けにけり	夏瘦	人事
5691	明治38年	夏の部	夏瘦の夜を親しむ獨坐かな	夏瘦	人事
5692	明治38年	夏の部	夏やせの水澄む頃に及びけり	夏瘦	人事
5693	明治38年	夏の部	夏瘦の人や文月の句を想ふ	夏瘦	人事
5694	明治38年	夏の部	夏痩や庭の梧桐の頼もしき	夏瘦	人事
5695	明治38年	夏の部	筍や既に春蔬の氣を厭ふ	筍	植物
5696	明治38年	夏の部	牡丹見る人驚かす毛虫かな	毛蟲	動物
5697	明治38年	夏の部	白牡丹白きを穢す毛虫哉	毛蟲	動物
5698	明治38年	夏の部	洗鯉客は当世の七才子	洗鯉	人事
5699	明治38年	夏の部	山開晴れて風鳴る頭上哉	山開	人事
5700	明治38年	夏の部	葉柳の枝伐落す浅き水	夏柳	植物
5701	明治38年	夏の部	病葉や銀杏に髙き卯月の日	病葉	植物
5702	明治38年	夏の部	薫風や處せきまで金魚盤	薫風	天文
5703	明治38年	夏の部	萬木の皆日に向ふ若葉哉	若葉	植物
5704	明治38年	夏の部	五月雨に押流さるゝあやめ哉	あやめ	植物
5705	明治38年	夏の部	五月晴大河を照す斜陽かな	五月晴	天文
5706	明治38年	夏の部	木隠れに大佛近く鹿の子哉	鹿の子	動物
5707	明治38年	夏の部	折ふしの肱笠雨や田植人	田植	人事
5708	明治38年	夏の部	喝采や花踏みちらすくらべ馬	競馬	人事
5709	明治38年	夏の部	昔男女ありけり鍋祭	筑摩祭	人事
5710	明治38年	夏の部	蓴採り舟を停めて語りけり	<b>蓴菜</b>	植物
5711	明治38年	夏の部	貧しくて青唐辛子潔し	青唐辛子	植物
5712	明治38年	夏の部	沙弥が来て青唐辛子貰ひけり	青唐辛子	植物
5713	明治38年	夏の部	花茨五月の晴と成にけり	茨の花	植物
5714	明治38年	夏の部	献や轍や竹うゝる記を作りけり	竹植る	人事
5716	明治38年	夏の部	君に贈るつるぎに清水そゝぎけり	清水	地理
5717	明治38年	夏の部	川狩や夜はほの广\と君が顔	川狩	人事
5718	明治38年	夏の部	麦秋の狼煙頻りにあがりけり	麦の秋	時候
5719	明治38年	夏の部	夕立のしぶきかしこし宮柱	夕立	天文
5720	明治38年	夏の部	雨やどり椎ばかりなる凉しさよ	凉し	時候

_			交び印		
No.	作句年	部	俳  句	季語	分類
5721	明治38年	夏の部	獨居の芭蕉に黙す麦こがし	麦焦し	人事
5722	明治38年	夏の部	雷に賢聖障子震ひけり	雷	天文
5723	明治38年	夏の部	青々と朝露垂るゝ胡瓜哉	瓜	植物
5724	明治38年	夏の部	夏山や敵の輜重のあり所	夏山	地理
5725	明治38年	夏の部	夏山や一あめすぐる宇治の町	夏山	地理
5726	明治38年	夏の部	夕立に芭蕉忽ちほぐれけり	夕立	天文
5727	明治38年	夏の部	温泉の宿がくれし金魚かな	金魚	動物
5728	明治38年	夏の部	三文の茄子五文の瓜も凉し	雑	雑
6045	明治39年	夏の部	その鳴くや佶屈として蟇	蟇	動物
6046	明治39年	夏の部	千載に一たび舞はむ蟇	蟇	動物
6047	明治39年	夏の部	藜伐て貧しき中に盟ひけり	藜	植物
6048	明治39年	夏の部	粽結ふ女の心忖りけり	粽	人事
6049	明治39年	夏の部	青眼のあるじや梅の実をかぢる	梅の實	植物
6050	明治39年	夏の部	蟇を獲て筆を絶ちけり奇人僧	蟇	動物
6051	明治39年	夏の部	舊跡や畑とならば紅の花	紅花	植物
6052	明治39年	夏の部	二頃の田青鷺も居て我富めり	青鷺	動物
6053	明治39年	夏の部	百貫の銭を荷へり夏木立	夏木立	植物
6054	明治39年	夏の部	衣更て人を遠きに懐ひけり	更衣	人事
6055	明治39年	夏の部	時鳥啼く頃の花さへ悲し	時鳥	動物
6056	明治39年	夏の部	清新の句を酬ひけり鮓の客	鮓	人事
6057	明治39年	夏の部	鮓なれて故人再び過りけり	鮓	人事
6058	明治39年	夏の部	我を以て貧しとなさず鮎の鮓	鮓	人事
6059	明治39年	夏の部	鮎の鮓少かに足らず朋の來る	鮓	人事
6060	明治39年	夏の部	今來んとばかりになれつ一夜すし	鮓	人事
6061	明治39年	夏の部	野の宮は蟲さへ飛はず青簾	青簾	人事
6062	明治39年	夏の部	青簾偶々過ぐる白頭翁	青簾	人事
6063	明治39年	夏の部	黄昏の月逗るや青すたれ	青簾	人事
6064	明治39年	夏の部	青簾夏行の心定まりぬ	青簾	人事
6065	明治39年	夏の部	青簾花を隔てゝ賣花翁	青簾	人事
6066	明治39年	夏の部	子を持たぬ鵜飼か妻の化粧哉	鵜飼	人事
6068	明治39年	夏の部	鵜を縱つ亊壮佼を凌ぎけり	鵜	動物
6069	明治39年	夏の部	六國の相印我に鵜縄かな	鵜	動物
6070	明治39年	夏の部	年々の鵜同じからず鵜川哉	鵜	動物
6071	明治39年	夏の部	花むしろ織りちらしたる晝寐哉	晝寢	人事
6072	明治39年	夏の部	うきくさに水まさりけり朝の程	萍	植物
6073	明治39年	夏の部	うき草の花吹く風に吹かれけり	萍	植物
6074	明治39年	夏の部	うき草の花に盛をわびにけり	萍	植物
6075	明治39年	夏の部	うき草の花に負きて小魚見ゆ	萍	植物
6076	明治39年	夏の部	うき草に早しのゝめの花白し	<b></b>	植物
6077	明治39年	夏の部	商人の衣を汚しぬ沖膾	沖膾	人事
6078	明治39年	夏の部	沖鱠一ト日脂粉を遠ざくる	沖膾	人事
6079	明治39年	夏の部		沖膾	人事
6080	明治39年	夏の部	酒壷の古きに対す沖鱠	沖膾	人事
6081	明治39年	夏の部	逸興や俄かに作る沖鱠	沖膾	人事
6082	明治39年	夏の部	鯉幟庭樹の露を拂ひけり	鯉幟	人事
6083	明治39年	夏の部	青梅に興や一家の詩を作る	梅の實	植物
6084	明治39年	夏の部	けし散るを惜む主人やはたゝ神	雷	天文
6085	明治39年	夏の部	矢叫に脅かされし夏野哉	夏野	地理

No.   作句年   部   毎   毎   毎   分類   季部   分類   分類   分類   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	_			交び即		
6088 明治39年 図の部   20部   20 部   20	No.	作句年	部	俳  句	季語	分類
6088 明治39年   夕の部   衣ぬいで北野を蛇の行方骸   蛇衣を脱ぐ   動物   の	6086	明治39年	夏の部	蝶一つ遠く吹かれし夏野哉	夏野	地理
6099 明治39年   夏の部   田部のいやしげならず夏羽織   長子   植物   6092 明治39年   夏の部   推子や上手の確みの室の中   推子   植物   6093 明治39年   夏の部   推子や上手の確みの室の中   推子   植物   6094 明治39年   夏の部   推子化上手の確みの室の中   推子   植物   6094 明治39年   夏の部   推子化上手の確みの室の中   推子   超物   1   1   1   1   1   1   1   1   1	6087	明治39年	夏の部	慇懃にすや梅干の壷一つ	梅干す	人事
6092 明治39年 夏の部   撫子や上手の篠みの草の中   撫子   植物   6093 明治39年 夏の部   推子に水を求めてありきけり   推子   植物   6094 明治39年 夏の部   推子に水を求めてありきけり   推子   植物   6095 明治39年 夏の部   推子に砂はねかへす嗽かな   推子   植物   6097 明治39年 夏の部   推子の淡々しさや青の星   推子   植物   6098 明治39年 夏の部   塩子の淡々しさや青の星   推子   植物   6098 明治39年 夏の部   塚小の次々しちや青の星   推子   植物   6099 明治39年 夏の部   塚小の糸なが  上子   推中   6100 明治39年 夏の部   塚小の糸なが  本下りで蝉なくカハ寺凉し   蝉の   動物   車下りで蝉なくカハ寺凉し   蝉の   動物   車下りで蝉なくカハ寺凉し   蝉の   動物   車下りで蝉なくカハ寺凉し   蝉   動物   車下の坊きる背や岬凉し   単   動物   車下の坊きる背や岬凉し   車   車   車   車   車   車   車   車   車	6088	明治39年	夏の部	衣ぬいで此野を蛇の行方哉	蛇衣を脱ぐ	動物
6092 明治39年 夏の部 撫子や土手の寝みの草の中 撫子 植物   6094 明治39年 夏の部 撫子に水を求めてありきけり 撫子 植物   6095 明治39年 夏の部 撫子に教の茂りや毒うつぎ	6089	明治39年	夏の部	口辯のいやしげならず夏羽織	夏羽織	人事
6093	6091	明治39年	夏の部	撫子やこゝに人待つ松林	撫子	植物
6094 明治39年 夏の部 撫子に藪の茂りや毒うつぎ 撫子 植物 6095 明治39年 夏の部 撫子に砂はねか~寸轍かな 撫子 植物 6096 明治39年 夏の部 撫子の淡々しさや青の早 撫子 植物 6096 明治39年 夏の部 堀子の淡々しさや青の早 撫子 植物 6099 明治39年 夏の部 堀りの新達凉し野撫子 撫子 植物 6100 明治39年 夏の部 知恵の新達凉し野撫子 撫子 植物 6102 明治39年 夏の部 本辺の夕撫子や霧早し 撫子 植物 6102 明治39年 夏の部 本辺の夕撫子や霧早し 撫子 植物 明治39年 夏の部 本辺の夕推子や霧早し 押子 動物 6104 明治39年 夏の部 赤辺の夕推子や霧早し 押子 動物 6104 明治39年 夏の部 本では「中本を入れしめず 蝉 動物 6105 明治39年 夏の部 極下してに埋なく方へ寺凉し 蝉 動物 6106 明治39年 夏の部 梅干はすいぞ/ と蝉の声 蝉 動物 6106 明治39年 夏の部 梅干はすいぞ/ と蝉の声 蝉 動物 61010 明治39年 夏の部 梅干はすいぞ/ と蝉の声 蝉 動物 61010 明治39年 夏の部 梅干はすいぞ/ と蝉の声 蝉 動物 61010 明治39年 夏の部 棒干はすいぞ/ と蝉の声 蝉 動物 6110 明治39年 夏の部 棒球の松や飛つく蝉嘘なり 蝉 動物 6110 明治39年 夏の部 体体にないないない 単 動物 6111 明治39年 夏の部 徐鴻は型れて蝉の声あつし 蝉 動物 6111 明治39年 夏の部 発験を仰の新水馬 水馬 動物 111 明治39年 夏の部 経験を柳の新水馬 水馬 動物 111 明治39年 夏の部 経験を柳の新水馬 水馬 動物 111 明治39年 夏の部 経験を柳の新水馬 水馬 動物 111 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 君葉 植物 6115 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 君葉 植物 6116 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 君葉 植物 6117 明治39年 夏の部 長の本経を飛ばしけり 清水 地理 111 明治39年 夏の部 長の本経を飛ばしけり 君本 植物 6118 明治39年 夏の部 長の本経を飛ばしけり 君東 植物 6119 明治39年 夏の部 長の本を吹き来る田植歌 田植 人事 明治39年 夏の部 短々の人に殺れし渡シかな 短夜 時候 7大9 6121 明治39年 夏の部 かんを吹き来る田植歌 田植 人事 明治39年 夏の部 かんを砂を吹き来る田植歌 田植 人事 明治39年 夏の部 かんを砂を吹き来る田植歌 田植 人事 明治39年 夏の部 毎を移めを発き、世 世 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1	6092	明治39年	夏の部	撫子や土手の窪みの草の中	撫子	植物
6095 明治39年 夏の部 撫子に砂はねかへす轍かな 撫子 植物   6096 明治39年 夏の部 無子の淡々しさや青の星   撫子   植物   6097 明治39年 夏の部   草原や鼻のたなる野撫子   撫子   植物   6099 明治39年 夏の部   草原や鼻のたなる野撫子   撫子   植物   6099 明治39年 夏の部   郊原の野連家し野撫子   撫子   植物   6100 明治39年 夏の部   郊原し門に車を入れしめず   類治39年 夏の部   頭凉り門に車を入れしめず   類治39年 夏の部   東京し門に車を入れしめず   類治39年 夏の部   東京し門に車を入れしめず   類治39年 夏の部   東京し門に車を入れしめず   類治39年 夏の部   東京し門に車を入れしゆず   類治39年 夏の部   東下りて埋なく方へ寺京し   類   動物   6104 明治39年 夏の部   梅干はすいぞ/ と輝の声   類   動物   6106 明治39年 夏の部   梅干はすいぞ/ と輝の声   類   動物   6107 明治39年 夏の部   梅干はすいぞ/ と輝の声   類   動物   6108 明治39年 夏の部   梅干はすいぞ/ と輝の声   類   動物   6109 明治39年 夏の部   海本立用あるく僧に接着す   類   動物   6110 明治39年 夏の部   海は単なや飛の声の一   類   動物   6111 明治39年 夏の部   を譲は埋れて輝の声あつ   類   動物   6111 明治39年 夏の部   を譲は埋れて輝の声あし   郷   動物   6111 明治39年 夏の部   を聴る準の布水馬   水馬   動物   6111 明治39年 夏の部   を聴る準の布水馬   水馬   動物   6116 明治39年 夏の部   を聴る手に針もおけり   鹿の子   動物   6117 明治39年 夏の部   昼眠る鹿の子に銀杏石葉   鹿の子   動物   6118 明治39年 夏の部   昼眠る鹿の子に銀杏石葉   鹿の子   動物   6110 明治39年 夏の部   昼眠る鹿の子に銀杏石葉   鹿の子   動物   6112 明治39年 夏の部   左眼る鹿の子に銀杏石葉   東の子   動物   6120 明治39年 夏の部   左眼る鹿の子にはかくればり   岩索   東の子   直物   月が39年 夏の部   大きなりけり   社井   直物   月が39年 夏の部   大きなりけり   社井   直物   月が39年 夏の部   毎の形で大変を置いていまなり   世積   人事   日報   人事   日報   人事   日報   人事   日報   月が39年 夏の部   がまりのの鹿や職筆   世積   人事   日報   人事   日報   人事   日報   人事   日報   人事   日報   日報   人事   日報   人事   日報   人事   日報   人事   日報   日報   人事   日報   人事   日報   日報   人事   日報   日報   人事   日報   人事   日報   人事   日報   人事   日報   人事   日報   人事   日報   日報   日報   人事   日報   日報   日報   日報   日報   日報   日報   日	6093	明治39年	夏の部	撫子に水を求めてありきけり	撫子	植物
6096 明治39年 夏の部   撫子の淡々しさや青の星   撫子   植物   明治39年 夏の部   草原や鼻の先なる野撫子   撫子   植物   6098 明治39年 夏の部   地切の新道京し野撫子   撫子   植物   6099 明治39年 夏の部   地切の新道京し野撫子   撫子   植物   6100 明治39年 夏の部   地切の新道京し野撫子   撫子   植物   6100 明治39年 夏の部   地球の野連子で露早し   撫子   植物   6101 明治39年 夏の部   地球に門に車を入れしめず   蝉   動物   6103 明治39年 夏の部   松下のおまに輝いいばり哉   蝉   動物   6104 明治39年 夏の部   ※安内の坊主に輝いいばり哉   蝉   動物   6105 明治39年 夏の部   松下ではなく方へ寺京し   蝉   動物   6106 明治39年 夏の部   松下ではなく方へ寺京し   蝉   動物   6107 明治39年 夏の部   梅干はすいぞ/ と蝉の声   蝉   動物   6108 明治39年 夏の部   藤本で)   本本立出あるく僧に移着す   蝉   動物   6108 明治39年 夏の部   藤本で)   韓本本立出ある(僧に移着す   蝉   動物   6110 明治39年 夏の部	6094	明治39年	夏の部	撫子に薮の茂りや毒うつぎ	撫子	植物
6097 明治39年 夏の部   草臥や鼻の先なる野撫子   撫子   植物   6099 明治39年 夏の部   堤切の新道凉し野撫子   撫子   植物   6099 明治39年 夏の部   水辺の夕無子や露早し   撫子   植物   6102 明治39年 夏の部   水辺の夕無子や露早し   撫子   植物   6103 明治39年 夏の部   東下りて蝉なく方へも成り   郷   動物   東下りて蝉なく方へ寺凉し   郷   動物   動物   6104 明治39年 夏の部   東下りて蝉なく方へ寺凉し   郷   動物   6105 明治39年 夏の部   物干して庫裡に人なし蝉時雨   郷   動物   6106 明治39年 夏の部   梅干はすいで/〉と郷の声   郷   動物   6107 明治39年 夏の部   梅干はすいで/〉と郷の声   郷   動物   6108 明治39年 夏の部   塩ボウ欝まる青や蝉凉し   郷   動物   6109 明治39年 夏の部   本での野まる青や蝉凉し   郷   動物   6110 明治39年 夏の部   全球の発える青や蝉凉し   郷   動物   6110 明治39年 夏の部   全球の砂木水高つ青田蔵   郷   動物   6111 明治39年 夏の部   全球を柳のが水馬   水馬   動物   6111 明治39年 夏の部   全球を柳のが水馬   水馬   動物   6116 明治39年 夏の部   全球を柳のが水馬   水馬   動物   6116 明治39年 夏の部   全球の砂木水高   左膝のの下に続き者華   鹿の子   動物   6116 明治39年 夏の部   上鹿の其子は人に射られけり   鹿の子   動物   6116 明治39年 夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   若葉   植物   6117 明治39年 夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   若葉   植物   6119 明治39年 夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   古葉   東の子   1016   日本   1017   日本   1018   日本   1018	6095	明治39年	夏の部	撫子に砂はねかへす轍かな	撫子	植物
6098   明治39年   夏の部   堀切の新道凉し野樵子   樵子   植物   6100   明治39年   夏の部   沙園を連って松に野樵子   樵子   植物   6101   明治39年   夏の部   水辺の夕樵子や露早し   樵子   植物   6103   明治39年   夏の部   車下りて蝉なく方へ寺凉し   蝉   動物   動物   6104   明治39年   夏の部   率下りて蝉なく方へ寺凉し   蝉   動物   動物   6104   明治39年   夏の部   率下りて蝉なく方へ寺凉し   蝉   動物   動物   6106   明治39年   夏の部   梅干はすいぞ/ と蝉の声   蝉   動物   動物   6106   明治39年   夏の部   梅干はすいぞ/ と蝉の声   蝉   動物   6107   明治39年   夏の部   梅木はすいぞ/ と蝉の声   蝉   動物   6108   明治39年   夏の部   梅木はすいぞ/ と蝉の声   蝉   動物   6110   明治39年   夏の部   梅末はずいぞ/ と蝉の声   蝉   動物   6110   明治39年   夏の部   梅末はずいぞ/ と蝉の声   蝉   動物   6110   明治39年   夏の部   梅志かを予張つく蝉唾なり   蝉   動物   6111   明治39年   夏の部   後述を予張つく蝉呼で声あつし   蝉   動物   6111   明治39年   夏の部   金融を参加の妬水馬   水馬   動物   6114   明治39年   夏の部   全藤の野木は大に射られけり   鹿の子   動物   6115   明治39年   夏の部   全藤の野・大は大に射られけり   花夢   鹿の子   動物   6116   明治39年   夏の部   全球の手に銀杏若葉   鹿の子   動物   6117   明治39年   夏の部   全球の紙を飛ばしけり   清水   地理   6118   明治39年   夏の部   塩皮の長しせじと日や哉   日傘   人事   6120   明治39年   夏の部   塩皮の人に銀杏若葉   塩皮の   中産   1月39年   夏の部   年月がはて帯の古きに篭りけり   牡丹   植物   6122   明治39年   夏の部   牡丹のチの霞や幟   田植   人事   6124   明治39年   夏の部   春月はで帯の古きに篭りけり   牡丹   植物   6125   明治39年   夏の部   青月はた寒の寒   古は   日本   大事の   6126   明治39年   夏の部   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	6096	明治39年	夏の部	撫子の淡々しさや宵の星	撫子	植物
6099 明治39年 夏の部   汐風を遮って松に野撫子   撫子   植物   6102 明治39年 夏の部	6097	明治39年	夏の部	草臥や鼻の先なる野撫子	撫子	植物
6100 明治39年 夏の部   水辺の夕撫子や露早し   撫子   植物   動物   明治39年 夏の部   蟬凉し門に車を入れしめず   蟬   動物   動物   明治39年 夏の部   案内の坊主に蟬のいばり散   蟬   動物   明治39年 夏の部   大工庫性に人なし蟬吟雨   蟬   動物   動物   明治39年 夏の部   椰干はすいぞ/ と蟬の声   蟬   動物   動物   明治39年 夏の部   椰干はすいぞ/ と蟬の声   蟬   動物   動物   一切   明治39年 夏の部   椰干はすいぞ/ と蟬の声   蟬   動物   動物   110   明治39年 夏の部   塚木立出あるく僧に拶着す   蟬   動物   動物   110   明治39年 夏の部   塚木立出あるく僧に拶着す   蟬   動物   動物   111   明治39年 夏の部   かしましき蟬ふかれ落つ青田散   蟬   動物   動物   111   明治39年 夏の部   全聴を柳の妬水馬   水馬   動物   111   明治39年 夏の部   全聴を柳の妬水馬   水馬   動物   111   明治39年 夏の部   全聴る虚の子に銀杏若葉   鹿の子   動物   111   明治39年 夏の部   全聴る虚の子に銀杏若葉   鹿の子   動物   111   明治39年 夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   潜水   世理   111   明治39年 夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   岩楽   世理   111   明治39年 夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   岩楽   植物   111   明治39年 夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   岩楽   植物   112   明治39年 夏の部   大わるく顔を見せじと日や散   日傘   人事   112   明治39年 夏の部   大わるく顔を見せじと日や散   日傘   人事   112   明治39年 夏の部   近夜の人に後れし渡シかな   短夜   時後   日韓   人事   112   明治39年 夏の部   夏の峰所行く君が空の上   雲の峰   天文   電か   113   明治39年 夏の部   夏の   夏の   夏の   夏の   夏の   夏の   日植   人事   112   明治39年 夏の   夏の   夏の   日植   人事   113   明治39年 夏の   日本   日本   人事   114   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	6098	明治39年	夏の部	堀切の新道凉し野撫子	撫子	植物
6102 明治39年 夏の部 鄭凉し門に車を入れしめず 鄭 動物 6103 明治39年 夏の部 東下りて蝉なく方へ寺凉し 鄭 動物 6105 明治39年 夏の部 物干して庫裡に入なし蝉時雨 鄭 動物 6106 明治39年 夏の部 梅干はすいぞ/ と蝉の声 鄭 動物 6107 明治39年 夏の部 鄭木立出あるく僧に移着す 鄭 動物 6108 明治39年 夏の部 墓守の蹲まる背や蝉凉し 蝉 動物 6109 明治39年 夏の部 徳法の松や飛つく蝉唾なり 蝉 動物 6111 明治39年 夏の部 参湯は埋れて郷の声あつし 蝉 動物 6113 明治39年 夏の部 を発され落つ青田哉 鄭 動物 6114 明治39年 夏の部 を発しればった。 本馬 動物 6115 明治39年 夏の部 起来を構造した。 本馬 動物 6116 明治39年 夏の部 と種を作べるゝ朽木かな 蛇苺 植物 6117 明治39年 夏の部 と種を作べるゝ朽木かな 蛇苺 6118 明治39年 夏の部 と歴を慮の子に銀杏若薬 鹿の子 動物 6116 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 唐の子 動物 6117 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 清水 地理 6118 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 清水 地種 6119 明治39年 夏の部 経夜の私を飛ばしけり 清水 地種 6120 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候 6121 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候 6121 明治39年 夏の部 を育さけり 牡丹 植物 6122 明治39年 夏の部 をかったを吹き来る田植歌 田植 人事 6123 明治39年 夏の部 夏の峰の夕の霞や幟竿 樹 人事 6124 明治39年 夏の部 春の本を吹き来る田植歌 田植 人事 6125 明治39年 夏の部 春の本を吹き来る田植歌 田植 人事 6126 明治39年 夏の部 極のかなでき来る田植歌 田植 人事 6127 明治39年 夏の部 極のかなを吹き変の上 雲の峰 天文 6127 明治39年 夏の部 極の音をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 春のをかるを呼へ昼寐哉 宝線	6099	明治39年	夏の部	汐風を遮って松に野撫子	撫子	植物
6103   明治39年   夏の部   車下りて輝なく方へ寺凉し   輝   動物   動物   6104   明治39年   夏の部   案内の坊主に蝉のいばり哉   蝉   動物   動物   6106   明治39年   夏の部   梅干はすいざ/ と脚の声   蝉   動物   竹6107   明治39年   夏の部   梅干はすいざ/ と脚の声   蝉   動物   6107   明治39年   夏の部   梅干はすいざ/ と脚の声   蝉   動物   6108   明治39年   夏の部   梅干はすいざ/ と脚の声   蝉   動物   6109   明治39年   夏の部   梅志の松や飛つく蝉哑なり   蝉   動物   6110   明治39年   夏の部   今まの本で飛つく蝉哑なり   蝉   動物   6111   明治39年   夏の部   多はは現れて蝉の声あつし   蝉   動物   6114   明治39年   夏の部   全陸を柳の耐水馬   水馬   動物   6114   明治39年   夏の部   全陸を柳の耐水馬   水馬   動物   6115   明治39年   夏の部   全限る鹿の子に銀杏若葉   鹿の子   動物   6116   明治39年   夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   鹿の子   動物   6118   明治39年   夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   若葉   植物   6119   明治39年   夏の部   草清水薬の紙を飛ばしけり   清木   地理   6120   明治39年   夏の部   塩液を見せじと日全故   日傘   人事   6120   明治39年   夏の部   塩液の人に後れし渡シかな   短夜   時候   6121   明治39年   夏の部   数夜の人に後れし渡シかな   短夜   時候   6121   明治39年   夏の部   数夜の人に後れし渡シかな   短夜   時保   6121   明治39年   夏の部   要の必要や織学   銀本の水を吹き来る田植歌   田植   人事   6124   明治39年   夏の部   海水の卵を冷でき来る田植歌   田植   人事   6124   明治39年   夏の部   海水の卵を冷できまる田植歌   田植   人事   6124   明治39年   夏の部   海水の卵を水砂   銀の   五球の卵・乳の甲   夏の部   東を修め家を齊へ昼麻散   田植   人事   6128   明治39年   夏の部   母を修め家を寄へ昼麻散   世段   日から   日がら   日がら   日から   日がら   日がら   日がら   日がら   日がら   日がら   日がら   日がら   日がら	6100	明治39年	夏の部	水辺の夕撫子や露早し	撫子	植物
6104 明治39年 夏の部 案内の坊主に蟬のいばり哉 蟬 動物 6105 明治39年 夏の部 物干して庫裡に人なし蟬時雨 蟬 動物 6107 明治39年 夏の部 梅干はすいぞ/ と蟬の声 蟬 動物 6108 明治39年 夏の部 韓本立出あるく僧に拶着す 蟬 動物 6108 明治39年 夏の部 傳法の松や飛つく 鄭唖なり 蟬 動物 6110 明治39年 夏の部 傳法の松や飛つく 鄭唖なり 蟬 動物 6111 明治39年 夏の部 李鵬はずいでずのであつし 蟬 動物 6111 明治39年 夏の部 全腰を御の妬水馬 水馬 動物 6114 明治39年 夏の部 全腰を御の妬水馬 水馬 動物 6116 明治39年 夏の部 全腰を御の妬水馬 水馬 動物 6116 明治39年 夏の部 白鹿の其子は人に好られけり 鹿の子 動物 6116 明治39年 夏の部 昼眠る鹿の子に銀杏苔葉 鹿の子 動物 6118 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 若葉 植物 6118 明治39年 夏の部 日鹿の支子は人に好られけり 清水 地理 6119 明治39年 夏の部 反明が家は若葉にかくれけり 清水 地理 6119 明治39年 夏の部 松丹活けで篭の古きに篭りけり オース 世籍 (120 明治39年 夏の部 知夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候 6122 明治39年 夏の部 製の体が行く若が笠の上 雲の峰 天文 6123 明治39年 夏の部 夏の降の分の蔵や較学 瞼 人事 6124 明治39年 夏の部 野かなの水を吹き来る田植歌 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 青月よし奈良を出れば雲の峰 雲の峰 天文 6123 明治39年 夏の部 かなのかを吹き来る田植歌 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 かなのかを吹き来る田植歌 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 かなのかを吹き来る田植歌 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 かなのか 6131 明治39年 夏の部 なん 144円をして俗ならしめず 牡丹 植物 6128 明治39年 夏の部 日本のがなるしめず 牡丹 植物 6130 明治39年 夏の部 極の音をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 極の音をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 夜な / ○五車の反古に鳴蚊散 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 核の不生減大を守りけり 鮓 人事 6135 明治39年 夏の部 株の花悪かなる子を遊ばしむ 柿の花	6102	明治39年	夏の部	蝉凉し門に車を入れしめず	蝉	動物
6105 明治39年 夏の部 物干して庫裡に人なし蝉時雨 蝉 動物 6106 明治39年 夏の部 梅干はすいぞ/〉と蝉の声 蝉 動物 6107 明治39年 夏の部 梅干はすいぞ/〉と蝉の声 蝉 動物 6109 明治39年 夏の部 盛子の蹲まる青や蝉凉し 蝉 動物 6109 明治39年 夏の部 傳法の松や飛つく蝉哑なり 蝉 動物 6110 明治39年 夏の部 体表の松や飛つく蝉哑なり 蝉 動物 6111 明治39年 夏の部 全藤を柳の妬水馬 水馬 動物 6114 明治39年 夏の部 全藤を柳の妬水馬 水馬 動物 6115 明治39年 夏の部 白鹿の其子は人に対られけり 鹿の子 動物 6116 明治39年 夏の部 白鹿の其子は人に対られけり 鹿の子 動物 6116 明治39年 夏の部 白鹿の其子は人に対られけり 鹿の子 動物 6118 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 若葉 植物 6119 明治39年 夏の部 短核の紙を飛ばしけり 清水 地理 6119 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候 6120 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候 6121 明治39年 夏の部 短水の水を吹き来る田植歌 田植 人事 6122 明治39年 夏の部 短水の水を吹き来る田植歌 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 万井と大京良を出れば雲の峰 葉の峰 天文 6123 明治39年 夏の部 房の枠の霞や幟竿 長125 明治39年 夏の部 春~人牡丹をして俗ならしめず 牡丹 植物 6126 明治39年 夏の部 春~人牡丹をして俗ならしめず 牡丹 植物 月39年 夏の部 春~人牡丹をして俗ならしめず 牡丹 植物 月39年 夏の部 春~人牡丹をして俗ならしめず 牡丹 植物 月39年 夏の部 春~人牡丹をつて破ならしめず 牡丹 植物 月39年 夏の部 梅が高をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 極の香をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 極の否をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 極の否をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 日のかの窺ひよるや講書人 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 極の否をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 かの石其頂ナを守りけり 幹 人事 6135 明治39年 夏の部 蜂の石其頂ナを守りけり 幹	6103	明治39年	夏の部	車下りて蝉なく方へ寺凉し	蝉	動物
6106 明治39年 夏の部 梅干はすいぞ/ \と蝉の声 蝉 動物 6107 明治39年 夏の部 鄭木立出あるく僧に抄着す 蝉 動物 6108 明治39年 夏の部 魯子の眸まる背や蝉凉し 蝉 動物 6109 明治39年 夏の部 佛法の松や飛つく蝉唾なり 蝉 動物 6110 明治39年 夏の部 かしましき蝉ふかれ落つ青田哉 蝉 動物 6111 明治39年 夏の部 参潟は埋れて蝉の声あつし 蝉 動物 6114 明治39年 夏の部 全藤を柳の妬水馬 水馬 動物 6115 明治39年 夏の部 白鹿の其子は人に射られけり 鹿の子 動物 6116 明治39年 夏の部 昼眠る鹿の子に銀杏若葉 鹿の子 動物 6117 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 潜水 地理 6119 明治39年 夏の部 与声が家は若葉にかくれけり 潜水 地理 6119 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候 6120 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候 6121 明治39年 夏の部 独力活けて菴の古きに篭りけり 牡丹 植物 6122 明治39年 夏の部 海々の水を吹き来る田植歌 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 婦妹の前を分つ田植哉 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 埼妹の前を分つ田植哉 田植 人事 6125 明治39年 夏の部 海々の水を吹き来る田植歌 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 海本のから変を齊へ昼寐哉 田植 人事 6125 明治39年 夏の部 海本の前を分つ田植哉 田植 人事 6126 明治39年 夏の部 梅水の前を分つ田植哉 田植 人事 6127 明治39年 夏の部 福の香をなっかしみ鳴飲かな 蚊 動物 6130 明治39年 夏の部 福の香をなっかしみ鳴飲かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 福の香をなっかしみ鳴飲かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 梅の香をなっかしみ鳴飲かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 梅の西をなっかしるや讃書人 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 権の方をなっかしるや讃書人 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 鮮のの異ひよるや讃書人 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり 鮓 人事 6135 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり	6104	明治39年	夏の部	案内の坊主に蝉のいばり哉	蝉	動物
6107 明治39年 夏の部 脚木立出あるく僧に拶着す 脚         動物           6108 明治39年 夏の部 墓守の蹲まる背や蝉凉し 蝉         動物           6109 明治39年 夏の部 傳法の松や飛つく蝉哑なり 蝉         動物           6110 明治39年 夏の部 像法の松や飛つく蝉哑なり 蝉         動物           6111 明治39年 夏の部 象潟は埋れて蝉の声あつし 蝉         動物           6113 明治39年 夏の部 経戀を柳の妬水馬 水馬 動物         水馬 動物           6114 明治39年 夏の部 昼腹の部 巨魔の部 全腹の声を行はに対られけり 鹿の子 動物         6115 明治39年 夏の部 昼服る鹿の子に銀杏若葉 鹿の子 動物           6117 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 若葉 植物         117 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 清水 地理           6119 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 清水 地理         6119 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 清水 地理           6120 明治39年 夏の部 上明活39年 夏の部 松丹活けて竜の古きに篭りけり 甘介 植物         日傘 人事           6121 明治39年 夏の部 独存の人に後れし渡シかな 短夜 時候         12 明治39年 夏の部 セハオできまる田植歌 田植 人事           6123 明治39年 夏の部 が水の前を分つ田植哉 田植 人事         12 明治39年 夏の部 が水の前を吹き来る田植歌 田植 人事           6124 明治39年 夏の部 孝の必のののの 書や職年 夏の部 赤外的を分つ田植哉 田植 人事         12 明治39年 夏の部 春のかのみの歌や職年 雲の峰 天文           6127 明治39年 夏の部 春のかるを吹き着へ昼寐哉 豊原 サカ 身を修め家を育へ昼寐哉 豊寮 人事         12 財務 り年 夏の部 楊の香をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物           6131 明治39年 夏の部 楊の香をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物         日の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人 蚊 動物           6131 明治39年 夏の部 楊の子を改かしる場 女 動物         日の部の変したるや遺伝の教験がな 数 動物           6133 明治39年 夏の部 様のが思かなる子を遊ばしむ 様の花 働物         動物           6134 明治39年 夏の部 様のが思かなる子を遊ばしむ 様の花 働物         13 明治39年 夏の部 様のが思かなる子を遊ばしむ 様の花 しまたる 動物	6105	明治39年	夏の部	物干して庫裡に人なし蝉時雨	蝉	動物
6108 明治39年 夏の部 墓守の蹲まる背や蝉凉し         蝉         動物           6109 明治39年 夏の部 傳法の松や飛つく蝉哑なり         蝉         動物           6110 明治39年 夏の部 像法の松や飛つく蝉哑なり         蝉         動物           6111 明治39年 夏の部 条潟は埋れて蝉の声あつし         蝉         動物           6113 明治39年 夏の部 逢戀を柳の妬水馬         水馬         動物           6114 明治39年 夏の部 蛇苺草にかくるゝ朽木かな         蛇苺 植物           6115 明治39年 夏の部 白鹿の其子は人に射られけり         鹿の子 動物           6116 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり         港を 植物           6117 明治39年 夏の部 長明が薬は若葉にかくれけり         清水         地理           6118 明治39年 夏の部 長の部 経夜の大に後れし渡シかな 短夜         中候           6120 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候         日傘 人事           6121 明治39年 夏の部 を夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候         野治39年 夏の部 雲の峰旅行く君が笠の上 雲の峰 天文           6121 明治39年 夏の部 夏の時の夕の霞や幟竿 幟 人事         日塩物           6122 明治39年 夏の部 が水の前を分つ田植哉 田植 人事         人事           6125 明治39年 夏の部 青丹よし奈良を出れば雲の峰 雲の峰 天文         電の峰 天文           6127 明治39年 夏の部 春の部 身を修め家を齊へ昼寐哉 豊慶 上 植物         大野           6129 明治39年 夏の部 春の部の部の部の部の部 身を修め家を寄へ昼寐哉 豊慶 人事         カ物           6130 明治39年 夏の部 楊の部のでに出そめし敷敷かな 敷物         動物           6131 明治39年 夏の部 春の野の部とよるや讃声人 敷         動物           6132 明治39年 夏の部 春の野の部 春の野の部の 夜な人人の正本の反古に鳴蚊哉 蚊 動物           6133 明治39年 夏の部 春の部の部の部 株の石裏のの部 株の石裏のでよるではいたいまたいまたいまたいまたいまたいまたればいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたい	6106	明治39年	夏の部	梅干はすいぞ/\と蝉の声	蝉	動物
6109 明治39年 夏の部   傳法の松や飛つく蝉唾なり   蝉   動物   動物   6110 明治39年 夏の部   かしましき蝉ふかれ落つ青田哉   蝉   動物   動物   6111 明治39年 夏の部   象鴻は埋れて蝉の声あつし   蝉   動物   動物   6113 明治39年 夏の部   逢戀を柳の妬水馬   水馬   動物   6114 明治39年 夏の部   蛇苺草にかくるゝ朽木かな   蛇苺   植物   6115 明治39年 夏の部   白鹿の其子は人に射られけり   鹿の子   動物   6116 明治39年 夏の部   昼眠る鹿の子に銀杏若葉   鹿の子   動物   6118 明治39年 夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   若薬   植物   6118 明治39年 夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   若薬   植物   6119 明治39年 夏の部   位表の人に後れし渡シかな   短夜   日傘   人事   6120 明治39年 夏の部   短夜の人に後れし渡シかな   短夜   時候   6121 明治39年 夏の部   整水の水を吹き来る田植歌   田植   人事   6122 明治39年 夏の部   愛の峰が行く君が笠の上   雲の峰   天文   6123 明治39年 夏の部   夏の噂の夕の霞や幟竿   幟   人事   6125 明治39年 夏の部   京みの本を吹き来る田植歌   田植   人事   6126 明治39年 夏の部   青丹よし奈良を出れば雲の峰   雲の峰   天文   6127 明治39年 夏の部   青丹よし奈良を出れば雲の峰   雲の峰   天文   6128 明治39年 夏の部   本の水を吹き来る田植歌   田植   人事   6129 明治39年 夏の部   本の水を吹き水かな   蚊   動物   6130 明治39年 夏の部   昼の蚊の窺ひよるや讃書人   蚊   動物   6131 明治39年 夏の部   昼の蚊の窺ひよるや讃書人   蚊   動物   6132 明治39年 夏の部   をかっないよるや讃書人   蚊   動物   6133 明治39年 夏の部   夜な/ \の五車の反古に鳴蚊哉   蚊   動物   6134 明治39年 夏の部   存の灯ざしや遠く蚊鳴去る   蚊   動物   6134 明治39年 夏の部   作の石其頑ナを守りけり   鮓   人事   6135 明治39年 夏の部   棒の石其頑ナを守りけり   鮓   人事   6135 明治39年 夏の部   棒の花形影かなる子を遊ばしむ   様の花   様の花   他の花	6107	明治39年	夏の部	蝉木立出あるく僧に拶着す	蝉	動物
6110   明治39年   夏の部 かしましき蝉ふかれ落つ青田哉   蝉   動物   動物   6111   明治39年   夏の部   条潟は埋れて蝉の声あつし   蝉   動物   動物   6113   明治39年   夏の部   逢戀を柳の妬水馬   水馬   動物   6114   明治39年   夏の部   蛇苺草にかくるゝ朽木かな   蛇苺   植物   6115   明治39年   夏の部   白鹿の其子は人に射られけり   鹿の子   動物   6116   明治39年   夏の部   昼眠る鹿の子に銀杏若葉   鹿の子   動物   6117   明治39年   夏の部   長明が家は若葉にかくれけり   若葉   植物   6118   明治39年   夏の部   草清水薬の紙を飛ばしけり   清水   地理   6119   明治39年   夏の部   気液の人に後れし渡シかな   短液   時候   6120   明治39年   夏の部   生丹活び竜の古きに篭りけり   牡丹   植物   6122   明治39年   夏の部   雲の峰が行く君が笠の上   雲の峰   天文   6123   明治39年   夏の部   夏の軽の夕の霞や幟竿   幟   人事   6124   明治39年   夏の部   夏の軽の夕の霞や幟竿   幟   人事   6125   明治39年   夏の部   青丹よし奈良を出れば雲の峰   雲の峰   天文   明治39年   夏の部   青丹よし奈良を出れば雲の峰   雲の峰   天文   明治39年   夏の部   東を修め家を齊へ昼寐哉   田植   人事   6128   明治39年   夏の部   身を修め家を齊へ昼寐哉   世刊   植物   6130   明治39年   夏の部   昼の蚊の窺ひよるや讃書人   蚊   動物   6131   明治39年   夏の部   昼の蚊の窺ひよるや讃書人   蚊   動物   6132   明治39年   夏の部   昼の蚊の窺ひよるや讃書人   蚊   動物   6133   明治39年   夏の部   本な/ へ西車の反古に鳴蚊哉   蚊   動物   6134   明治39年   夏の部   本な/ へ西車の反古に鳴蚊哉   蚊   動物   6134   明治39年   夏の部   年の口ざしや遠く蚊鳴去る   蚊   動物   6134   明治39年   夏の部   本な/ へ西車の反古に鳴蚊哉   蚊   動物   6134   明治39年   夏の部   年の口ざしや遠く蚊鳴去る   蚊   動物   6134   明治39年   夏の部   本な/ へ西車の反古に鳴蚊哉   蚊   動物   6134   明治39年   夏の部   本の工其頭ナを守りけり   鮓   人事   6135   明治39年   夏の部   株の花愚かなる子を遊ばしむ   株の花   植物	6108	明治39年	夏の部	墓守の蹲まる背や蝉凉し	蝉	動物
6111 明治39年 夏の部 象潟は埋れて蝉の声あつし         蝉         動物           6113 明治39年 夏の部 逢戀を柳の妬水馬         水馬         動物           6114 明治39年 夏の部 蛭苺草にかくるゝ朽木かな         蛇苺         植物           6115 明治39年 夏の部 白鹿の其子は人に射られけり         鹿の子         動物           6116 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり         若葉         植物           6117 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり         若葉         植物           6118 明治39年 夏の部 草清水薬の紙を飛ばしけり         清水         地理           6119 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな         短夜         時候           6120 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな         短夜         時候           6121 明治39年 夏の部 短んり上後れし渡シかな         塩肉         大事           6122 明治39年 夏の部 独々の水を吹き来る田植歌 田植         人事           6123 明治39年 夏の部 夢々のか水を吹き来る田植歌 田植         人事           6124 明治39年 夏の部 夢々のののでので一種で         職権         人事           6125 明治39年 夏の部 寿みと多め家を育へ昼寐哉         田植         人事           6127 明治39年 夏の部 寿りを修め家を育へ昼寐哉         晝寝         人事           6128 明治39年 夏の部 昼のがの発ひよるや讃幸人         敷物           6131 明治39年 夏の部 昼のがの発ひよるや讃書人         敷物           6132 明治39年 夏の部 日本の対の発しや違く蚊鳴去る         蚊         動物           6133 明治39年 夏の部 本の本の表しや変しかなと、大の五車の反古に鳴女を         女         動物           6134 明治39年 夏の部 本のおの表したいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまた	6109	明治39年	夏の部	傳法の松や飛つく蝉唖なり	蝉	動物
6113         期治39年         夏の部         逢戀を柳の妬水馬         水馬         動物           6114         明治39年         夏の部         蛇苺草にかくるゝ朽木かな         蛇苺         植物           6115         明治39年         夏の部         白鹿の其子は人に射られけり         鹿の子         動物           6116         明治39年         夏の部         長明が家は若葉にかくれけり         若葉         植物           6118         明治39年         夏の部         長明が家は若葉にかくれけり         若葉         植物           6119         明治39年         夏の部         長明が家は若葉にかくれけり         若葉         植物           6119         明治39年         夏の部         人わるく顔を見せじと日や哉         日傘         人事           6120         明治39年         夏の部         短夜の人に後れし渡シかな         短夜         時候           6121         明治39年         夏の部         独内活けて菴の古きに篭りけり         牡丹         植物           6122         明治39年         夏の部         妻の嗾の水を吹き来る田植歌         田植         人事           6123         明治39年         夏の部         青みよし奈良を出れば雲の峰         雲の峰         天文           6125         明治39年         夏の部         青子とい奈らし会の職業の         変の峰         天文           6127         明治39年         夏の部         本人牡丹をして俗ならしめず         牡丹         植物	6110	明治39年	夏の部	かしましき蝉ふかれ落つ青田哉	蝉	動物
6114 明治39年 夏の部 蛇苺草にかくるゝ朽木かな 蛇苺 植物 6115 明治39年 夏の部 白鹿の其子は人に射られけり 鹿の子 動物 6116 明治39年 夏の部 昼眠る鹿の子に銀杏若葉 鹿の子 動物 6117 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 若葉 植物 6118 明治39年 夏の部 長明が家は若葉にかくれけり 清水 地理 6119 明治39年 夏の部 人わるく顔を見せじと日仐哉 日傘 人事 6120 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候 6121 明治39年 夏の部 牡丹活けて菴の古きに篭りけり 牡丹 植物 6122 明治39年 夏の部 雲の峰旅行く君が笠の上 雲の峰 天文 6123 明治39年 夏の部 夢々の水を吹き来る田植歌 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 夢々の水を吹き来る田植歌 田植 人事 6125 明治39年 夏の部 姉妹の餉を分つ田植哉 田植 人事 6126 明治39年 夏の部 春一人牡丹をして俗ならしめず 牡丹 植物 6128 明治39年 夏の部 孝を修め家を齊へ昼寐哉 霊寝 人事 6129 明治39年 夏の部 はご高の花に出そめし薮蚊かな 蚊 動物 6130 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讃書人 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讃書人 蚊 動物 6132 明治39年 夏の部 存な / 〜の五車の反古に鳴蚊哉 蚊 動物 6134 明治39年 夏の部 存な / 〜の五車の反古に鳴蚊哉 蚊 動物 6134 明治39年 夏の部 がんれるそを遊ばしむ 株の花	6111	明治39年	夏の部	象潟は埋れて蝉の声あつし	蝉	動物
6115         明治39年         夏の部         白鹿の其子は人に射られけり         鹿の子         動物           6116         明治39年         夏の部         昼眠る鹿の子に銀杏若葉         鹿の子         動物           6117         明治39年         夏の部         長明が家は若葉にかくれけり         若葉         植物           6118         明治39年         夏の部         人わるく顔を見せじと日令哉         日傘         人事           6119         明治39年         夏の部         短夜の人に後れし渡シかな         短夜         時候           6120         明治39年         夏の部         独々の人に後れし渡シかな         短夜         時候           6121         明治39年         夏の部         牡丹活けて菴の古きに篭りけり         牡丹         植物           6122         明治39年         夏の部         妻の峰旅行く君が笠の上         雲の峰         天文           6123         明治39年         夏の部         夢の暁の夕の霞や幟竿         幟         人事           6124         明治39年         夏の部         青丹よし奈良を出れば雲の峰         雲の峰         天文           6125         明治39年         夏の部         客一人牡丹をして俗ならしめず         牡丹         植物           6126         明治39年         夏の部         身を修め家を齊へ昼寐哉         晝寝         人事           6129         明治39年         夏の部         橘の香をなつかしみ鳴蚊かな         蚊         動物 <td< td=""><td>6113</td><td>明治39年</td><td>夏の部</td><td>逢戀を柳の妬水馬</td><td>水馬</td><td>動物</td></td<>	6113	明治39年	夏の部	逢戀を柳の妬水馬	水馬	動物
6116         明治39年         夏の部         昼眠る鹿の子に銀杏若葉         鹿の子         動物           6117         明治39年         夏の部         長明が家は若葉にかくれけり         若葉         植物           6118         明治39年         夏の部         草清水薬の紙を飛ばしけり         清水         地理           6119         明治39年         夏の部         人かるく顔を見せじと日全哉         日傘         人事           6120         明治39年         夏の部         短夜の人に後れし渡シかな         短夜         時候           6121         明治39年         夏の部         性外活けて菴の古きに篭りけり         牡丹         植物           6122         明治39年         夏の部         豊峰旅行く君が笠の上         雲の峰         天文           6123         明治39年         夏の部         夏の部の水を吹き来る田植歌         田植         人事           6124         明治39年         夏の部         夢のみれを吹き来る田植歌         田植         人事           6125         明治39年         夏の部         青丹よし奈良を出れば雲の峰         雲の峰         天文           6127         明治39年         夏の部         身を修め家を齊へ昼寐哉         晝寝         人事           6129         明治39年         夏の部         山世高の花に出そめし薮紋かな         蚊         動物           6130         明治39年         夏の部         昼のかの鏡かの鏡かの鏡がなた出来の長れ、         蚊         動物	6114	明治39年	夏の部	蛇苺草にかくるゝ朽木かな	蛇苺	植物
6117         明治39年         夏の部         長明が家は若葉にかくれけり         若葉         植物           6118         明治39年         夏の部         草清水薬の紙を飛ばしけり         清水         地理           6119         明治39年         夏の部         人かるく顔を見せじと日令哉         日傘         人事           6120         明治39年         夏の部         短夜の人に後れし渡シかな         短夜         時候           6121         明治39年         夏の部         牡丹活けて菴の古きに篭りけり         牡丹         植物           6122         明治39年         夏の部         雲の峰旅行く君が笠の上         雲の峰         天文           6123         明治39年         夏の部         夏の部の水を吹き来る田植駅         田植         人事           6124         明治39年         夏の部         青丹よし奈良を出れば雲の峰         雲の峰         天文           6125         明治39年         夏の部         青丹よし奈良を出れば雲の峰         雲の峰         天文           6127         明治39年         夏の部         身を修め家を齊へ昼寐哉         晝寢         人事           6128         明治39年         夏の部         場の香をなつかしみ鳴蚊かな         蚊         動物           6130         明治39年         夏の部         昼の対の義のなとの強いないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	6115	明治39年	夏の部	白鹿の其子は人に射られけり	鹿の子	動物
6118         明治39年         夏の部         草清水藥の紙を飛ばしけり         清水         地理           6119         明治39年         夏の部         人わるく顔を見せじと日令哉         日傘         人事           6120         明治39年         夏の部         短夜の人に後れし渡シかな         短夜         時候           6121         明治39年         夏の部         牡丹活けて菴の古きに篭りけり         牡丹         植物           6122         明治39年         夏の部         妻の峰旅行く君が笠の上         雲の峰         天文           6123         明治39年         夏の部         夢々の水を吹き来る田植歌         田植         人事           6124         明治39年         夏の部         姉妹の餉を分つ田植哉         田植         人事           6125         明治39年         夏の部         青丹よし奈良を出れば雲の峰         雲の峰         天文           6127         明治39年         夏の部         身を修め家を齊へ昼寐哉         豊寝         人事           6128         明治39年         夏の部         村と修め家を齊へ昼寐哉         敷物           6130         明治39年         夏の部         橘の香をなつかしみ鳴蚊かな         蚊         動物           6131         明治39年         夏の部         その蚊の窺ひよるや讀書人         蚊         動物           6131         明治39年         夏の部         夜な/〉の五車の反古に鳴蚊哉         蚊         動物           6134         明治3	6116	明治39年	夏の部	昼眠る鹿の子に銀杏若葉	鹿の子	動物
6119 明治39年 夏の部         人わるく顔を見せじと日仐哉         日傘         人事           6120 明治39年 夏の部         短夜の人に後れし渡シかな         短夜         時候           6121 明治39年 夏の部         牡丹活けて菴の古きに篭りけり         牡丹         植物           6122 明治39年 夏の部         雲の峰旅行く君が笠の上         雲の峰         天文           6123 明治39年 夏の部         夏の部 砂々の水を吹き来る田植歌         田植         人事           6124 明治39年 夏の部 夏の部の夕の霞や幟竿         幟         人事           6125 明治39年 夏の部 靖丹よし奈良を出れば雲の峰         雲の峰         天文           6127 明治39年 夏の部 孝一人牡丹をして俗ならしめず         牡丹         植物           6128 明治39年 夏の部 身を修め家を齊へ昼寐哉         晝寢         人事           6130 明治39年 夏の部 橘の香をなつかしみ鳴蚊かな         蚊         動物           6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人         蚊         動物           6132 明治39年 夏の部 本のが近さしや遠く蚊鳴去る         蚊         動物           6133 明治39年 夏の部 をな/への五車の反古に鳴蚊哉         女         動物           6134 明治39年 夏の部 株の石其頂ナを守りけり         鮓         人事           6135 明治39年 夏の部 株の花愚かなる子を遊ばしむ         株の花         人事	6117	明治39年	夏の部	長明が家は若葉にかくれけり	若葉	植物
6120 明治39年 夏の部 短夜の人に後れし渡シかな 短夜 時候 6121 明治39年 夏の部 牡丹活けて菴の古きに篭りけり 牡丹 植物 6122 明治39年 夏の部 雲の峰旅行く君が笠の上 雲の峰 天文 6123 明治39年 夏の部 夏の曉の夕の霞や幟竿 幟 人事 6124 明治39年 夏の部 夏の曉の夕の霞や幟竿 幟 人事 6125 明治39年 夏の部 姉妹の餉を分つ田植哉 田植 人事 6126 明治39年 夏の部 青丹よし奈良を出れば雲の峰 雲の峰 天文 6127 明治39年 夏の部 客一人牡丹をして俗ならしめず 牡丹 植物 6128 明治39年 夏の部 身を修め家を齊へ昼寐哉 晝寢 人事 6129 明治39年 夏の部 山苣萵の花に出そめし薮蚊かな 蚊 動物 6130 明治39年 夏の部 橘の香をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人 蚊 動物 6132 明治39年 夏の部 一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る 蚊 動物 6134 明治39年 夏の部 夜な/〜の五車の反古に鳴蚊哉 蚊 動物 6134 明治39年 夏の部 嫁の石其頑ナを守りけり 鮓 人事 6135 明治39年 夏の部 がの花愚かなる子を遊ばしむ 柿の花 植物	6118	明治39年	夏の部	草清水藥の紙を飛ばしけり	清水	地理
6121 明治39年 夏の部 牡丹活けて菴の古きに篭りけり         牡丹 植物 6122 明治39年 夏の部 雲の峰旅行く君が笠の上 雲の峰 天文 6123 明治39年 夏の部 渺々の水を吹き来る田植歌 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 夏の曉の夕の霞や幟竿 幟 人事 6125 明治39年 夏の部 姉妹の餉を分つ田植哉 田植 人事 6126 明治39年 夏の部 青丹よし奈良を出れば雲の峰 雲の峰 天文 6127 明治39年 夏の部 客一人牡丹をして俗ならしめず 牡丹 植物 6128 明治39年 夏の部 身を修め家を齊へ昼寐哉 晝寢 人事 6129 明治39年 夏の部 山苣萵の花に出そめし薮蚊かな 蚊 動物 6130 明治39年 夏の部 橘の香をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人 蚊 動物 6132 明治39年 夏の部 でなく 1 の五車の反古に鳴蚊哉 蚊 動物 6134 明治39年 夏の部 核の不を守りけり 鮓 人事 6135 明治39年 夏の部 株の花愚かなる子を遊ばしむ 枕の花 植物	6119	明治39年	夏の部	人わるく顔を見せじと日仐哉	日傘	人事
6122 明治39年 夏の部 雲の峰旅行く君が笠の上 雲の峰 天文 6123 明治39年 夏の部 渺々の水を吹き来る田植歌 田植 人事 6124 明治39年 夏の部 夏の曉の夕の霞や幟竿 幟 人事 6125 明治39年 夏の部 姉妹の餉を分つ田植哉 田植 人事 6126 明治39年 夏の部 青丹よし奈良を出れば雲の峰 雲の峰 天文 6127 明治39年 夏の部 客一人牡丹をして俗ならしめず 牡丹 植物 6128 明治39年 夏の部 身を修め家を齊へ昼寐哉 晝寢 人事 6129 明治39年 夏の部 山苣萵の花に出そめし薮蚊かな 蚊 動物 6130 明治39年 夏の部 橘の香をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人 蚊 動物 6132 明治39年 夏の部 夜な / \の五車の反古に鳴蚊哉 蚊 動物 6133 明治39年 夏の部 核の不といるようを遊ばしむ 株の花 植物	6120	明治39年	夏の部	短夜の人に後れし渡シかな	短夜	時候
6123 明治39年 夏の部       渺々の水を吹き来る田植歌       田植       人事         6124 明治39年 夏の部       夏の曉の夕の霞や幟竿       幟       人事         6125 明治39年 夏の部       姉妹の餉を分つ田植哉       田植       人事         6126 明治39年 夏の部       青丹よし奈良を出れば雲の峰       雲の峰       天文         6127 明治39年 夏の部       客一人牡丹をして俗ならしめず       牡丹       植物         6128 明治39年 夏の部       身を修め家を齊へ昼寐哉       晝寢       人事         6129 明治39年 夏の部       山苣萵の花に出そめし薮蚊かな       蚊       動物         6130 明治39年 夏の部       橘の香をなつかしみ鳴蚊かな       蚊       動物         6131 明治39年 夏の部       昼の蚊の窺ひよるや讀書人       蚊       動物         6132 明治39年 夏の部       夜な/への五車の反古に鳴蚊哉       蚊       動物         6134 明治39年 夏の部       鮓の石其頑ナを守りけり       鮓       人事         6135 明治39年 夏の部       株の花愚かなる子を遊ばしむ       株の花       植物	6121	明治39年	夏の部	牡丹活けて菴の古きに篭りけり	牡丹	植物
6124 明治39年 夏の部 夏の曉の夕の霞や幟竿 幟 人事 6125 明治39年 夏の部 姉妹の餉を分つ田植哉 田植 人事 6126 明治39年 夏の部 青丹よし奈良を出れば雲の峰 雲の峰 天文 6127 明治39年 夏の部 客一人牡丹をして俗ならしめず 牡丹 植物 6128 明治39年 夏の部 身を修め家を齊へ昼寐哉 晝寢 人事 6129 明治39年 夏の部 山苣萵の花に出そめし薮蚊かな 蚊 動物 6130 明治39年 夏の部 橘の香をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人 蚊 動物 6132 明治39年 夏の部 一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る 蚊 動物 6133 明治39年 夏の部 夜な/\の五車の反古に鳴蚊哉 蚊 動物 6134 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり 鮓 人事	6122	明治39年	夏の部	雲の峰旅行く君が笠の上	雲の峰	天文
6125 明治39年 夏の部 姉妹の餉を分つ田植哉 田植 人事 6126 明治39年 夏の部 青丹よし奈良を出れば雲の峰 雲の峰 天文 6127 明治39年 夏の部 客一人牡丹をして俗ならしめず 牡丹 植物 6128 明治39年 夏の部 身を修め家を齊へ昼寐哉 晝寢 人事 6129 明治39年 夏の部 山苣萵の花に出そめし薮蚊かな 蚊 動物 6130 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人 蚊 動物 6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人 蚊 動物 6132 明治39年 夏の部 でな/への五車の反古に鳴蚊哉 蚊 動物 6134 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり 鮓 人事 6135 明治39年 夏の部 株の花愚かなる子を遊ばしむ 桃の花	6123	明治39年	夏の部	渺々の水を吹き来る田植歌	田植	人事
6126明治39年夏の部青丹よし奈良を出れば雲の峰雲の峰天文6127明治39年夏の部客一人牡丹をして俗ならしめず牡丹植物6128明治39年夏の部身を修め家を齊へ昼寐哉晝寢人事6129明治39年夏の部山苣萵の花に出そめし薮蚊かな蚊動物6130明治39年夏の部昼の蚊の窺ひよるや讀書人蚊動物6131明治39年夏の部一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る蚊動物6132明治39年夏の部夜な/\の五車の反古に鳴蚊哉蚊動物6134明治39年夏の部鮓の石其頑ナを守りけり鮓人事6135明治39年夏の部桃の花愚かなる子を遊ばしむ桃の花植物	6124	明治39年	夏の部	夏の曉の夕の霞や幟竿	幟	人事
6127 明治39年 夏の部 客一人牡丹をして俗ならしめず       牡丹 植物         6128 明治39年 夏の部 身を修め家を齊へ昼寐哉       晝寢 人事         6129 明治39年 夏の部 山苣萵の花に出そめし薮蚊かな       蚊 動物         6130 明治39年 夏の部 橘の香をなつかしみ鳴蚊かな       蚊 動物         6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人       蚊 動物         6132 明治39年 夏の部 一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る       蚊 動物         6133 明治39年 夏の部 夜な/\の五車の反古に鳴蚊哉       蚊 動物         6134 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり       鮓 人事         6135 明治39年 夏の部 桃の花愚かなる子を遊ばしむ       桃の花	6125	明治39年	夏の部	姉妹の餉を分つ田植哉	田植	人事
6128 明治39年 夏の部 身を修め家を齊へ昼寐哉       晝寢       人事         6129 明治39年 夏の部 山苣萵の花に出そめし薮蚊かな 蚊 動物       6130 明治39年 夏の部 橘の香をなつかしみ鳴蚊かな 蚊 動物         6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人 蚊 動物       6132 明治39年 夏の部 一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る 蚊 動物         6133 明治39年 夏の部 夜な/\の五車の反古に鳴蚊哉 蚊 動物         6134 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり 鮓 人事         6135 明治39年 夏の部 桃の花愚かなる子を遊ばしむ 桃の花	6126	明治39年	夏の部	青丹よし奈良を出れば雲の峰	雲の峰	天文
6129 明治39年 夏の部 山苣萵の花に出そめし薮蚊かな       蚊       動物         6130 明治39年 夏の部 橘の香をなつかしみ鳴蚊かな       蚊       動物         6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人       蚊       動物         6132 明治39年 夏の部 一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る       蚊       動物         6133 明治39年 夏の部 夜な/\の五車の反古に鳴蚊哉       蚊       動物         6134 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり       鮓       人事         6135 明治39年 夏の部 株の花愚かなる子を遊ばしむ       枕の花       植物	6127	明治39年	夏の部	客一人牡丹をして俗ならしめず	牡丹	植物
6130 明治39年 夏の部 橋の香をなつかしみ鳴蚊かな     蚊     動物       6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人     蚊     動物       6132 明治39年 夏の部 一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る     蚊     動物       6133 明治39年 夏の部 夜な/\の五車の反古に鳴蚊哉     蚊     動物       6134 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり     鮓     人事       6135 明治39年 夏の部 株の花愚かなる子を遊ばしむ     桃の花     植物	6128	明治39年	夏の部	身を修め家を齊へ昼寐哉	晝寢	人事
6131 明治39年 夏の部 昼の蚊の窺ひよるや讀書人     蚊     動物       6132 明治39年 夏の部 一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る     蚊     動物       6133 明治39年 夏の部 夜な/\の五車の反古に鳴蚊哉     蚊     動物       6134 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり     鮓     人事       6135 明治39年 夏の部 株の花愚かなる子を遊ばしむ     桃の花     植物	6129	明治39年	夏の部	山苣萵の花に出そめし薮蚊かな	蚊	動物
6132 明治39年 夏の部 一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る     蚊     動物       6133 明治39年 夏の部 夜な/\の五車の反古に鳴蚊哉     蚊     動物       6134 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり     鮓     人事       6135 明治39年 夏の部 株の花愚かなる子を遊ばしむ     桃の花     植物	6130	明治39年	夏の部	橘の香をなつかしみ鳴蚊かな		動物
6133 明治39年 夏の部 夜な/\の五車の反古に鳴蚊哉     蚊     動物       6134 明治39年 夏の部 鮓の石其頑ナを守りけり     鮓     人事       6135 明治39年 夏の部 株の花愚かなる子を遊ばしむ     桃の花     植物	6131	明治39年	夏の部	昼の蚊の窺ひよるや讀書人		動物
6134明治39年夏の部鮓の石其頑ナを守りけり鮓人事6135明治39年夏の部林の花愚かなる子を遊ばしむ柹の花植物	6132			一穂の灯ざしや遠く蚊鳴去る	蚊	動物
6135 明治39年 夏の部 株の花愚かなる子を遊ばしむ 株の花 植物	6133	明治39年	夏の部	夜な / \の五車の反古に鳴蚊哉		動物
	6134	明治39年	夏の部	<u></u> 炸の石其頑ナを守りけり	· ·	人事
6136   明治39年   夏の部   株の花よべの狸を打ちし跡   株の花   植物	6135			<b>柹</b> の花愚かなる子を遊ばしむ		
	6136	明治39年	夏の部	林の花よべの狸を打ちし跡	柹の花	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6137	明治39年	夏の部	<b>桃の花掃きも棄つべき流あり</b>	株の花	植物
6138	明治39年	夏の部	衣濯ぐ智月が宿や柿の花	株の花	植物
6139	明治39年	夏の部	蚊帳貰うて去来戻りぬ柿の花	桃の花	植物
6140	明治39年	夏の部	運ぶべき甕に夕日や柿の花	桃の花	植物
6141	明治39年		加茂を出て日にあたりたる葵哉	葵	植物
6142	明治39年		加茂の子が戯れかざす葵かな	葵	植物
6143	明治39年		葵かけて糺の水に鑑みぬ	葵	植物
6144	明治39年	夏の部	枯葵清少納言老いにけり	葵	植物
6145	明治39年	夏の部	葵かざす蒼生や神の國	葵	植物
6146	明治39年	夏の部	氷室守老いて帝の御幸哉	氷室	人事
6147	明治39年	夏の部	氷室見て氷の髄を思ひけり	氷室	人事
6148	明治39年	夏の部	養老の滝の上なる氷室哉	氷室	人事
6149	明治39年	夏の部	氷室開く吉き日の旭上りけり	氷室	人事
6150	明治39年	夏の部	百合の花活々として氷室山	氷室	人事
6151	明治39年	夏の部	水鶏啼くや郷先生の碑のあたり	水鶏	動物
6152	明治39年	夏の部	鵜を縱つ人壯ン也鬢の霜	鵜	動物
6153	明治39年	夏の部	綿打によき娘あり棉の花	棉の花	植物
6154	明治39年		白蓮の咲きしが特に骨立ちぬ	蓮	植物
6155	明治39年	夏の部	一村や麻より低き家ばかり	麻	植物
6156	明治39年	夏の部	雲水と挨拶しけり麻頭巾	麻頭巾	人事
6157	明治39年	夏の部	一宿して立去る君や麻頭巾	麻頭巾	人事
6158	明治39年	夏の部	麻頭巾白眼に人通りけり	麻頭巾	人事
6159	明治39年	夏の部	髙山の嵐や夏の蝶あがる	夏の蝶	動物
6160	明治39年	夏の部	夕顔に人まだ早し辻説法	夕顔	植物
6161	明治39年	夏の部	合歡咲くや日はあか / \と西の海	合歓の花	植物
6162	明治39年	夏の部	雨乞の人むら / \と登山哉	雨乞	人事
6163	明治39年	夏の部	一盆の水くつがへす簟	簟	人事
6164	明治39年	夏の部	寺深く微凉を慕ひ至りけり	凉し	時候
6165	明治39年	夏の部	夏菊にまゆ商人をもてなしぬ	夏菊	植物
6166	明治39年	夏の部	朝露や晒し遺れし晒菅	菅刈	人事
6167	明治39年	夏の部	露おくや踏まれずにある晒菅	菅刈	人事
6168	明治39年	夏の部	葭簣して藍扱く女白かりし	藍扱く	人事
6169	明治39年	夏の部	野の村や麻より低き家ばかり	麻	植物
6171	明治39年	夏の部	昼顔のからまるものも無かりけり	晝顔	植物
6173	明治39年	夏の部	臑の蚊を打つたびに我句は成りぬ	蚊	動物
6174	明治39年	夏の部	南瓜咲いて民の愠りの解けにけり	南瓜の花	植物
6175	明治39年	夏の部	南瓜作る南瓜の花が咲きにけり	南瓜の花	植物
6176	明治39年	夏の部	万巻の書を讀破しぬ心太	心太	人事
6177	明治39年	夏の部	蟇鳴くや家に焚餘の書を藏む	蟇	動物
6178	明治39年	夏の部	書庫を出る洒掃の子や今年竹	若竹	植物
6179	明治39年	夏の部	蒭蕘の輩ラ凉し書を讀む	凉し	時候
6180	明治39年	夏の部	白蓮や一日外典に目をさらす	蓮	植物
6181	明治39年	夏の部	五車の蠧魚と我老にけり簟	簟	人事
6182	明治39年	夏の部	江山を藏めて凉し書庫の中	凉し	時候
6478	明治40年		花に負き句を鬪はす牡丹かな	牡丹	植物
6479	明治40年	夏の部	目に残る扇流や河鹿鳴く	河鹿	動物
6480	明治40年	夏の部	夏山に居て材木の荒削り	夏山	地理
6481	明治40年	夏の部	先生の爲に蚊火焚く夜学哉	蚊遣	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6482	明治40年	夏の部	蚊やり草薫と蕕とを分ちけり	蚊遣	人事
6483	明治40年	夏の部	篭り人少れに來る蚊に起きてあり	蚊	動物
6484	明治40年	夏の部	湯上りや妻が刈来る蚊やり草	蚊遣	人事
6485	明治40年	夏の部	一片の心蚊をやく故人かな	蚊遣	人事
6486	明治40年	夏の部	白頭の今に苦吟や蚊を悪む	蚊	動物
6487	明治40年	夏の部	今朝とりし菊の葉の虫や雹がふる	雹	天文
6488	明治40年	夏の部	百合を折る一時の興や峠越え	百合	植物
6489	明治40年	夏の部	たが家の墓所や大きな百合の花	百合	植物
6490	明治40年	夏の部	百合活けて山野の氣味を覚えけり	百合	植物
6491	明治40年	夏の部	夏の日を恐るゝ人や百合の花	百合	植物
6492	明治40年	夏の部	蕗の谷行く / \ 百合の山路哉	百合	植物
6493	明治40年	夏の部	風に偃す草と異り百合の花	百合	植物
6494	明治40年	夏の部	野百合咲いて軍兵の目を凉しくす	百合	植物
6495	明治40年	夏の部	山裾の岬の幟吹かれけり	幟	人事
6496	明治40年	夏の部	夏山や騅といふ馬牽来る	夏山	地理
6497	明治40年	夏の部	短夜の事かきそへつ文のはし	短夜	時候
6498	明治40年	夏の部	述懐の洒々落々と明易き	短夜	時候
6499	明治40年	夏の部	地氣動くところ果して清水かな	清水	地理
6500	明治40年	夏の部	劍客と袂を分つ清水かな	清水	地理
6501	明治40年	夏の部	夜出でしけものゝ跡や草しみず	清水	地理
6502	明治40年	夏の部	商人の銭鳴らしけり岩清水	清水	地理
6503	明治40年	夏の部	人絶えて溢るゝばかり清水哉	清水	地理
6504	明治40年	夏の部	滴りの金石にしむ清水かな	清水	地理
6505	明治40年	夏の部	清水湧く一路当帰の茂かな	清水	地理
6506	明治40年	夏の部	日光の草に洽き清水哉	清水	地理
6507	明治40年	夏の部	村の子の草くゞり行く清水哉	清水	地理
6508	明治40年	夏の部	村塾の罰則清水汲ましめぬ	清水	地理
6509	明治40年	夏の部	あけやすく既に幟の二三本	幟	人事
6510	明治40年		牡丹さげて競馬の泥を避けにけり	牡丹	植物
6512	明治40年		行々子も鳴かず豊葦原の國	行々子	動物
6513	明治40年	夏の部	海濶の二字を題しぬ沖膾	沖膾	人事
6514	明治40年	夏の部	賓客の到りまもなく夕立哉	夕立	天文
6515	明治40年	夏の部	<u>蓬生やかゝる小家に金魚玉</u>	金魚玉	人事
6516	明治40年	夏の部	象潟の鶴は返らぬ青田哉	青田	地理
6517	明治40年	夏の部	松葉ちる一々法の韻きかな	松落葉	植物
6518	明治40年	夏の部	經藏を風に開くや松落葉	松落葉	植物
6519	明治40年	夏の部		<b></b>	植物
6520	明治40年	夏の部		萍	植物
6521	明治40年	夏の部		萍	植物
6522	明治40年	夏の部	浮草や蝉鳴く森を水の上	<b></b>	植物
6523	明治40年	夏の部	浮草に新たに蓮の巻葉哉	<b></b>	植物
6524	明治40年	夏の部		<b></b>	植物
6525	明治40年	夏の部		<b></b>	植物
6526	明治40年	夏の部		<b></b>	植物
6527	明治40年			<b></b>	植物
6528	明治40年	夏の部	虫干の室に隣りて謡かな	蟲干	人事
6529	明治40年	夏の部	虫干や天地に留む一詩巻	蟲干	人事
6530	明治40年	夏の部	蒭蕘の何にさゝやく曝書哉	蟲干	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6531	明治40年	夏の部	書をさらし終る松風蘿月哉	蟲干	人事
6532	明治40年	夏の部	蝉鳴くと行く道の辺の泉哉	蝉	動物
6533	明治40年	夏の部	蝉すゞし山に不断の法の声	蝉	動物
6534	明治40年	夏の部	清淨の身を蝉のなく下山哉	蝉	動物
6535	明治40年	夏の部	凉しげに蝉聴ゝおはすとも見えず	蝉	動物
6536	明治40年	夏の部	山深きかしこさよ蝉鳴くさへも	蝉	動物
6537	明治40年	夏の部	此山の巨人の跡や雨祈る	雨乞	人事
6538	明治40年	夏の部	雨乞の地をトす崖の青すゝき	雨乞	人事
6539	明治40年	夏の部	雨祈るこの大木を力かな	雨乞	人事
6540	明治40年	夏の部	雨乞の人狼籍す百合の花	雨乞	人事
6541	明治40年	夏の部	人泊めし蚊帳の釣手も名残哉	蚊帳	人事
6542	明治40年	夏の部	白扇に夏菊そへて使かな	夏菊	植物
6543	明治40年	夏の部	夏菊を乞へば主人の吝さかに	夏菊	植物
6544	明治40年	夏の部	夏菊にそゝぐべき水一荷哉	夏菊	植物
6545	明治40年	夏の部	夏菊にまじり剪られつ雑の草	夏菊	植物
6546	明治40年	夏の部	夏菊に人旱魃の立咄	夏菊	植物
6547	明治40年	夏の部	うろくつの耳すますらん御祓川	御祓	人事
6548	明治40年	夏の部	七種のみそきの供物星凉し	御祓	人事
6549	明治40年	夏の部	水ナ上の蒼々の樹や御祓川	御祓	人事
6550	明治40年	夏の部	御祓人通ふ草原小石原	御祓	人事
6551	明治40年	夏の部	神の御衣想ふみそぎの水の色	御祓	人事
6552	明治40年	夏の部	御祓川尊きものに瀬を早み	御祓	人事
6553	明治40年	夏の部	御祓川岸辺に長き青すゝき	御祓	人事
6554	明治40年	夏の部	波さわぐ物の恐れや御祓川	御祓	人事
6555	明治40年	夏の部	御祓川雲吹落す嵐山	御祓	人事
6556	明治40年	夏の部	夕祓水ひた / \ と岸辺かな	御祓	人事
6557	明治40年	夏の部	清水近く飯白き宿と記しけり	清水	地理
6558	明治40年	夏の部	猿酒に明易き夜や君が醉	短夜	時候
6559	明治40年	夏の部	朴すゞし君が行李のおきどころ	凉し	時候
6560	明治40年	夏の部	冷酒の醉を忘るな山膾	冷酒	人事
6561	明治40年	夏の部	夏菊の貧を侮りぬ仇し草	夏菊	植物
6562	明治40年	夏の部	百合の香に驚いて相別れけり	百合	植物
6563	明治40年	夏の部	糠漬の浴き別れや瓜茄子	雑	雑
6564	明治40年	夏の部	語合ふ明日の別を灯取虫	灯取蟲	動物
6565	明治40年	夏の部	灯取虫の魂君が草枕	灯取蟲	動物
6566	明治40年	夏の部	夕顔に早く蟵つる病かな	夕顔	植物
6567	明治40年	夏の部	鑛毒に遠く夕顔咲にけり	夕顔	植物
6568	明治40年	夏の部	夕皃やいつこ神鳴る宵の癖	夕顔	植物
6569	明治40年	夏の部	相似たり夕皃棚のありどころ	夕顔	植物
6570	明治40年	夏の部	夕皃を見つ刈にゆく蚊やり草	夕顔	植物
6571	明治40年	夏の部	納凉する塩噌の外の一間哉	納凉	人事
6573	明治40年	夏の部	夏菊の家一つ舟果にけり	夏菊	植物
6574	明治40年	夏の部	今日の瀨の鮎居ずなりし故郷哉	魚上	動物
6575	明治40年	夏の部	吾を知る人や乏しき鮎くれし	魚上	動物
6576	明治40年		鮎くるゝ人に鄙吝の心なし	魚上	動物
6577	明治40年	夏の部	見下ろすや鮎つる人に岩髙き	<b>魚占</b>	動物
6578	明治40年	夏の部	山に居る官人に鮎乞はれけり	魚上	動物
6579	明治40年	夏の部	鮎を釣る朝のいとまや川近き	鮎	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6580	明治40年	夏の部	山門の金剛玉や麦埃り	麦打ち	人事
6840	明治41年	夏の部	編笠に月照るばかり夜道かな	編笠	人事
6841	明治41年	夏の部	花苗のあだに伸びたり田植過	田植	人事
6842	明治41年	夏の部	心太すすって自問自答かな	心太	人事
6843	明治41年	夏の部	わが家の藏書乏しうして凉し	凉し	時候
6844	明治41年	夏の部	喬木の生立ち凉し沢一つ	凉し	時候
6845	明治41年	夏の部	風蓮雨蓮此意を以て詩を品す	蓮	植物
6846	明治41年	夏の部	山郭やこの一筋の御祓川	御祓	人事
6847	明治41年	夏の部	繭屑のえり屑も満つ古麻小笥	繭	人事
6848	明治41年	夏の部	硯賣重荷卸すやまゆむしろ	繭	人事
6849	明治41年	夏の部	詩の意公主に媚ぶや闘草	闘草	人事
6850	明治41年	夏の部	雨雲の千里百里や闘草	闘草	人事
6851	明治41年	夏の部	齷齪と世に處る人や蚤一つ	蚤	動物
6852	明治41年	夏の部	たちぎわの朝雷や蚤の宿	蚤	動物
6853	明治41年	夏の部	洪水を見に早起や蚤の宿	蚤	動物
6854	明治41年	夏の部	目ふさげばきのふの花やのみの宿	蚤	動物
6855	明治41年	夏の部	佗人の先づ知る蚤や花うつぎ	蚤	動物
6856	明治41年	夏の部	夏の雨浴びて尚釣るけしきかな	夏の雨	天文
6857	明治41年	夏の部	聞知らぬ農話の興や夏の雨	夏の雨	天文
6858	明治41年	夏の部	一炉けぶる幻住庵や夏の雨	夏の雨	天文
6859	明治41年	夏の部	夏の雨牧畜の構大なり	夏の雨	天文
6860	明治41年	夏の部	けしの如く敦盛死して夏の雨	夏の雨	天文
6861	明治41年	夏の部	野辺送三百人や草茂る	草茂る	植物
6862	明治41年	夏の部	茂りゆく山辺薄命佳人すむ	茂り	植物
6864	明治41年	夏の部	一草の茂れるも一伽藍かな	草茂る	植物
6865	明治41年	夏の部	羅や花活けて妻の主ぶる	羅	人事
6866	明治41年	夏の部	さをとめの早起の戸や水鶏啼く	早乙女	人事
6867	明治41年	夏の部	新妻の顔の黒子や鮓を押す	鮓	人事
6868	明治41年	夏の部	隣人の何に竹割る明易き	短夜	時候
6869	明治41年	夏の部	鮎つるとこそ見ゆれ肩聳かす	鮎	動物
6870	明治41年	夏の部	老鴬や行李が届く假の宿	老鶯	動物
6871	明治41年	夏の部	竹植ゑて小酌常と異ならず	竹植る	人事
6872	明治41年	夏の部	なべて家は桜青葉や竹植うる	竹植る	人事
6873	明治41年	夏の部	桃の実は兒孫の汁や竹植うる	竹植る	人事
6874	明治41年	夏の部	半日小集竹植しつかれあり	竹植る	人事
6875	明治41年	夏の部	来べき人来ずと文あり竹うゝる	竹植る	人事
6876	明治41年	夏の部	大なる泉を控え酒煮哉	煮酒	人事
6877	明治41年	夏の部	蕗茂る里見に来れば酒煮哉	煮酒	人事
6878	明治41年	夏の部	花にそゝぐ夕や酒煮の家あるじ	煮酒	人事
6879	明治41年	夏の部	椎一木酒煮の僕こぞりけり	煮酒	人事
6880	明治41年	夏の部	酒煮祝ふお僧尊くおはしけり	煮酒	人事
6881	明治41年	夏の部	斯道の絶えずも芭蕉玉をまく	芭蕉玉卷	植物
6882	明治41年	夏の部	夏篭や翊々として虫のとぶ	夏籠	人事
6883	明治41年	夏の部	蛾と化して白き翅や虎が雨	蛾	動物
6884	明治41年	夏の部	蚊柱や馬賣惜む頑に	蚊	動物
6885	明治41年	夏の部	閨と云へど女も棲まず柹の花	株の花	植物
6886	明治41年	夏の部	鍜冶もすむ山手の茂文庫見ゆ	茂り	植物
6887	明治41年	夏の部	三ヶ条書庫の掟や蝉すゞし	蝉	動物

			多の即		
No.	作句年	部	俳 句	季語	分類
6888	明治41年	夏の部	編みさしの図書目録や梅黄ばむ	梅の實	植物
6889	明治41年	夏の部	日上るや降らぬにきまる旱雲	早	天文
6890	明治41年	夏の部	水をせく石動かすや旱村	早	天文
6891	明治41年	夏の部	神事佛事なき一郷の旱哉	早	天文
6892	明治41年	夏の部	養魚地に鳥捕る黐も旱哉	早	天文
6893	明治41年	夏の部	水源地鬱蒼として旱かな	早	天文
6894	明治41年	夏の部	紙魚出る頃に終りぬ嵯峨日記	紙魚	動物
6895	明治41年	夏の部	打ち / \ し紙魚弔ふや秋隣	紙魚	動物
6896	明治41年	夏の部	愁へては行李のしみをはたきけり	紙魚	動物
6897	明治41年	夏の部	夏篭や肱を曲ぐれば紙魚ひそむ	紙魚	動物
6898	明治41年	夏の部	掃へどもしみ出る事よ諸子百家	紙魚	動物
6899	明治41年	夏の部	はた / \としみ打つ祖父や晝寐時	紙魚	動物
6900	明治41年	夏の部	硯石の産地の論や百合の花	百合	植物
6901	明治41年	夏の部	打水や虫は書灯の方へ飛ぶ	打水	人事
6902	明治41年	夏の部	打水や怪鳥も来鳴く庭木にて	打水	人事
6903	明治41年	夏の部	小半日習字打水したりけり	打水	人事
6904	明治41年	夏の部	打水の折から一騎通りけり	打水	人事
6905	明治41年	夏の部	打水に猫の子走る庭浅し	打水	人事
6906	明治41年	夏の部	地拓けバ先づ馬鈴薯や夏野原	夏野	地理
6907	明治41年	夏の部	夏野路や沼沿ひときけど沼も見えず	夏野	地理
6908	明治41年		放牧の馬に濁れり夏野川	夏野	地理
6909	明治41年	夏の部	蹄跡中窪路の夏野哉	夏野	地理
6910	明治41年	夏の部	松ありて祖師に似し憇ふ夏野かな	夏野	地理
6911	明治41年	夏の部	景にふれて帰山の念や舟遊	舟遊	人事
6912	明治41年	夏の部	桑の実や心に会して古詩をよむ	桑の實	植物
6913	明治41年	夏の部	山荒の話はたごに虹近し	虹	天文
6914	明治41年	夏の部	渡守の後ろ曠野や虹の空	虹	天文
6915	明治41年	夏の部	薬がくれに子鴨うきけり虹明り	虹	天文
6916	明治41年		虹うつる山裾道の日仐かな	虹	天文
6917	明治41年	夏の部	層々の山迢々の水虹あかり	虹	天文
7108	明治42年	夏の部	筍に花漬の約償ひぬ	<b></b>	植物
7109	明治42年	夏の部	反古清書筍の皮棄にけり	<b></b>	植物
7110	明治42年	夏の部	提婆品筍の皮剥き落す	<b></b>	植物
7111	明治42年	夏の部	木曽路より音信到る袷かな	袷	人事
7112	明治42年	夏の部	大杯をあぐと誇張の幟かな	幟	人事
7113	明治42年	夏の部	木立出れば馬に鞭つ幟かな	幟	人事
7114	明治42年	夏の部	水攻の河も空しき幟かな	幟	人事
7115	明治42年	夏の部	朴の葉に糧裹む慣ひ幟哉	幟	人事
7116	明治42年	夏の部	家の吉事栽うる門木や幟立つ	幟	人事
7118	明治42年	夏の部	一景に一神守護や雲の峰	雲の峰	天文
7120	明治42年	夏の部	游艸にとゞむ歌曲や夏柳	夏柳	植物
7122	明治42年	夏の部	此水も此樹も石も風かほる	薫風	天文
7123	明治42年	夏の部	熊笹の刈場を谷のさみだるゝ	五月雨	天文
7124	明治42年	夏の部	五月雨や一物の香炉賣惜む	五月雨	天文
7125	明治42年	夏の部	鷺を射る的なす森や五月雨 カ辺里辺海攻知らずされだる。	五月雨	天文
7126 7127	明治42年 明治42年	夏の部夏の部	女沼男沼通路知らずさみだる > 生き死ぬる毛虫羽虫や五月雨	五月雨 五月雨	天文 天文
7127	明治42年		まされぬる七虫羽虫や五月 R	雨乞	
1128	切1042年	夏の部	母早にか40し熟で附別の	RD C	人事

_			,		
No.	作句年	部	俳 句	季語	分類
7129	明治42年	夏の部	神業の雨ふれば峯渡る鹿	雨乞	人事
7130	明治42年	夏の部	請雨法夕に開く花の前	雨乞	人事
7131	明治42年	夏の部	遠雷や筆端に墨みちぬれバ	雷	天文
7132	明治42年	夏の部	河中の根木を漁人の納凉哉	納凉	人事
7133	明治42年	夏の部	夏の山雷落つるけはひ哉	夏山	地理
7134	明治42年	夏の部	百姓の手負いたはる瓜の畑	瓜	植物
7243	明治43年	夏の部	諸木輪講一石黙す夏行かな	安居	人事
7244	明治43年	夏の部	結夏の偈朝に夕に朱を点ず	安居	人事
7245	明治43年	夏の部	一字酬う到来の筆や安居寺	安居	人事
7246	明治43年	夏の部	角なきが如牙なきが如一夏の字	安居	人事
7247	明治43年	夏の部	妄執の焔夏經の頭上かな	安居	人事
7248	明治43年	夏の部	酒をたつ一夏堅固や雲の峰	安居	人事
7249	明治43年	夏の部	つみすつる夏花汲みすつる泉哉	夏花	人事
7251	明治43年	夏の部	夏木描く傍鬼の話哉	夏	時候
7252	明治43年	夏の部	一宿に足る交や露凉し	夏の露	天文
7253	明治43年	夏の部	草木の名を知る誇り蚊火あるじ	蚊遣	人事
7254	明治43年	夏の部	客頻りに山容を賞す蚊やり時	蚊遣	人事
7255	明治43年	夏の部	里蚊やり頃になれバ山おろし吹く	蚊遣	人事
7256	明治43年	夏の部	君にけぶる蚊火よと妻のあふきけり	蚊遣	人事
7257	明治43年	夏の部	蚊火に加ふ金泥の反古二三片	蚊遣	人事
7337	明治44年	夏の部	遠まはりして水細に綿の花	棉の花	植物
7338	明治44年	夏の部	馬好きの暮鶏好きの旦綿の花	棉の花	植物
7340	明治44年	夏の部	薫風や蕗の主人にさそはれて	薫風	天文
7341	明治44年	夏の部	水打て鯉の大きさ語りけり	打水	人事
7343	明治44年	夏の部	帰路一字改竄思ふ山清水	清水	地理
7344	明治44年	夏の部	初祖遠忌藪の清水に蹊あり	清水	地理
7345	明治44年	夏の部	杣清水娘の色を白うせり	清水	地理
7346	明治44年	夏の部	轡鳴らして人警むる清水哉	清水	地理
7347	明治44年	夏の部	紙魚の如き君と相見る清水哉	清水	地理
7349	明治44年	夏の部	幽明相隔つ話柄や苔清水	清水	地理
7351	明治44年	夏の部	説法ハ瓜の鴉に利くまいぞ	瓜	植物
7430	明治45年	夏の部	此樹あればぞ此里のある夏の月	夏の月	天文
7432	明治45年	夏の部	砧女も其父母もありぬべし	砧	人事
7434	明治45年	夏の部	割前を出さざなるまい心太	心太	人事
7436	明治45年	夏の部	水飯をま白しと見る目に涙	水飯	人事
7438	明治45年	夏の部	潭心の寒きより寒し梅の花	梅	植物
7440	明治45年	夏の部	春服やつゝじに匂ふ人の顔	春服	人事
7442	明治45年	夏の部	藥舐る禽にかあらん木下闇	木下闇	植物
7444	明治45年	夏の部	流泉を饒舌と做す簟	簟	人事
7446	明治45年	夏の部	蝉涼し來往に石をふむ流レ	凉し	時候
7448	明治45年	夏の部	遠雷や突兀として起句雄に	雷	天文
7450	明治45年	夏の部	木犀や晨に淡き詩人の灯	木犀	植物
7452	明治45年	夏の部	木がくれて童子も立てり夕紅葉	紅葉	植物
7454	明治45年	夏の部	老松の雪振落し/ \	雪	天文
7456	明治45年	夏の部	露の珠を吸尽しけむ螢飛ぶ	螢	動物
7458	明治45年	夏の部	双飛鳥一莖葦よだち寂しうす	夜立ち	天文
7459	明治45年	夏の部	峽を下る箭の舟やよだち雲裂けて	夜立ち	天文
7460	明治45年	夏の部	早鬼の角碎けよと夕立かな	夕立	天文
<b></b>				1	1

## 明治36年~明治45年

## 夏の部

No.	作句年	部	俳  句	季語	分類
7461	明治45年	夏の部	誰が斧に祟りて深山夕立哉	夕立	天文
7462	明治45年	夏の部	夕立の狼籍たりや里神樂	夕立	天文
7463	明治45年	夏の部	羽うつ鳥の怪異やよだちの水烟	夜立ち	天文
7465	明治45年	夏の部	霹靂として神去りましぬ夏の雲	夏の雲	天文
7467	明治45年	夏の部	早稲の香に天機洩し聞ゆ畏さよ	稻	植物
7469	明治45年	夏の部	九二六五相臨む吉今朝の秋	今朝の秋	時候
7471	明治45年	夏の部	蚊火細う猶寐ねずあり小百姓	蚊遣	人事
7472	明治45年	夏の部	虫掃ふこと丁寧や零墨も	蟲干	人事
7473	明治45年	夏の部	兀ねんと居れバ灯取虫一度す	灯取蟲	動物
7474	明治45年	夏の部	時を違へず蜩の啼きいづる	蜩	動物
7475	明治45年	夏の部	秋近き何に指ざす漁者樵者	秋近し	時候
7477	明治45年	夏の部	材木に啼きついて蝉の尚あつし	蝉	動物
7479	明治45年	夏の部	巖踏みし足の埃や鮎の宿	鮎	動物